

## 參考資料

# 参考資料：目次

## 目次

A. 取り組みについて	... 2	C. 小保・榎津エリア分析	... 31	D. 小保・榎津のエリア基本計画	... 56
1. 本計画について	... 3	1. 現在の大川市のエリアイメージ	... 32	1. ターゲット設定	... 57
2. 日本の課題	... 4	2. 小保・榎津の成り立ち	... 33	2. ターゲット設定の考え方	... 58
3. 課題解決の糸口①	... 5	3. 小保・榎津の町割りの変遷	... 34	3. ターゲット設定 外国人観光客	... 59
4. 課題解決の糸口②	... 6	4. 小保・榎津の町割りの変遷 昭和	... 35	4. 滞在コンテンツ(市内)	... 60
5. 観光まちづくりについて①	... 7	5. 小保・榎津の町割りの変遷 現在	... 36	5. 滞在コンテンツ(中域)	... 61
6. 観光まちづくりについて②	... 8	6. 小保・榎津の空間的特徴	... 37	6. 旧緒方家住宅活用イメージ	... 62
7. 観光まちづくりについて③	... 9	7. 小保・榎津の江湖やクレーク	... 38	7. N邸活用イメージ	... 63
8. コロナ禍の観光動向	... 10	8. 現在の小保・榎津 都市計画区域	... 39	8. E邸活用イメージ	... 64
B. 大川市全体の概況	... 11	9. 現在の小保・榎津 空間利用	... 40	9. S邸活用イメージ	... 65
1. 大川の地域概要	... 12	10. 小保・榎津の来訪者動線	... 41	10. U邸活用イメージ	... 66
2. 大川へのアクセス(広域)	... 13	11. 小保・榎津エリアの地域資源	... 42	E. 事業スキーム	... 67
3. 大川へのアクセス(中域)	... 14	12. 大川市の観光動向	... 43	1. 事業スキーム図 事例①	... 68
4. 大川周辺の地形と立地	... 15	13. 日本国内の観光動向	... 44	2. 事業スキーム図 事例②	... 69
5. 大川の伝統工芸	... 16	14. 2023年直近の動向	... 45	F. 資金調達スキーム	... 70
6. 大川の祭事・イベント	... 17	15. (参考) 各国別の傾向	... 46	1. 資金調達手法 事例①	... 71
7. 大川の食文化	... 18	16. (参考) 各国別の傾向	... 47	2. 資金調達手法 事例②	... 72
8. 大川の歴史	... 19	17. 福岡県の観光動向	... 48	3. 資金調達手法 事例③	... 73
9. 大川の文化財建築	... 20	18. 近隣地域の観光動向①	... 49	4. 資金調達スキーム(案)	... 74
10. 大川の文化財建築	... 21	19. 近隣地域の観光動向②	... 50		
11. 小保・榎津の歴史①	... 22	20. 小保・榎津エリアの課題	... 51		
12. 小保・榎津の歴史②	... 23	人口減少・少子高齢化			
13. 小保・榎津の歴史③	... 24	21. 小保・榎津エリアの課題	... 52		
14. 小保・榎津の歴史④	... 25	地域産業・生業の衰退			
15. 小保・榎津の歴史⑤	... 26	22. 家具産地について	... 53		
16. 小保・榎津の取り組み	... 27	23. 歴史的まちなみの	... 54		
街並み環境保全事業		活用について①			
17. 小保・榎津の取り組み	... 28	24. 歴史的まちなみの	... 55		
藩境のまち保存会		活用について②			
18. 現在の大川	... 29				
19. 今後の大川	... 30				

## A. 取り組みについて

## A-1. 本計画について

大川リビルディング事業の方針 出展:「(仮称)大川の駅」を核とした産業・観光の再構築 大川市

### 新たなマーケットへの船出

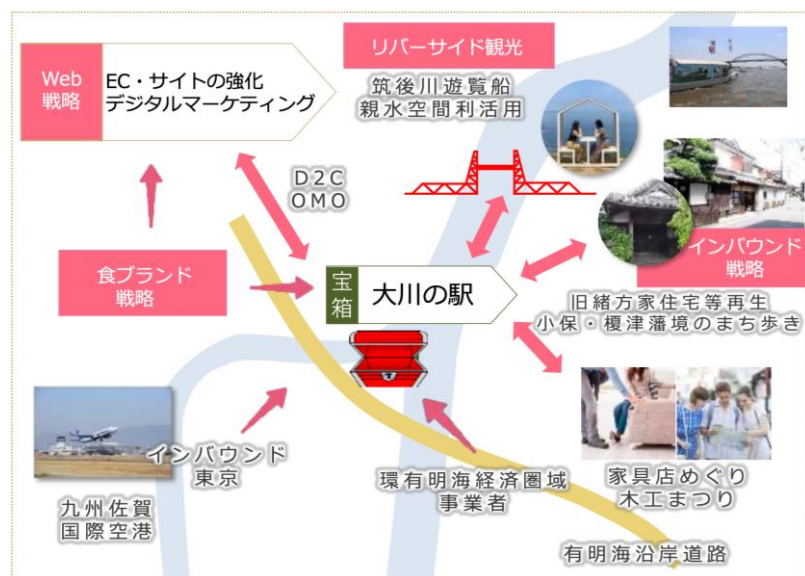
観光インバウンドへの対応強化や  
拡張が続くウェブ・インバウンドへの  
取り組み。

### 価値の発見と発信

大川では当たり前でも、外から見  
ると大きな価値のある素材の発  
掘・磨き上げ・発信の取り組み。

### 持続性と迅速性を持った組織構築

左の2つの活動を担う、収益性が確  
保され、迅速な意思決定を行う組織  
体形成への取り組み。



「(仮称)大川の駅」整備の経済効果を高めるため、新たな地方創生事業として「大川Rebuilding(リビルディング)事業」がスタートします。

この事業は、本市の産業・観光政策の様々な課題を洗い出し、情報化、国際化、デジタル化が急速に進むビジネス環境の変化に素早く適応していくものです。

具体的には、多様な魅力を持つ筑後川リバーサイドの観光活性化による「人の流れ」の創出、「小保・榎津 藩境の町並み」を活用したインバウンド施策を通じた「まちの元気」の創出、インターネットビジネスの戦略化支援による「稼ぐ力」の創出という3つの柱を軸に、3ヶ年で様々な課題解決に取り組み、大川市のブランド力向上、産業の活性化を目指すものです。

令和5年度から大川リビルディング事業にて、これまでの産業・観光振興施策の課題の洗い直しを実施します。  
本計画では、小保・榎津地区の地域資源を見つめ直すことで、課題解決の糸口を探ります。

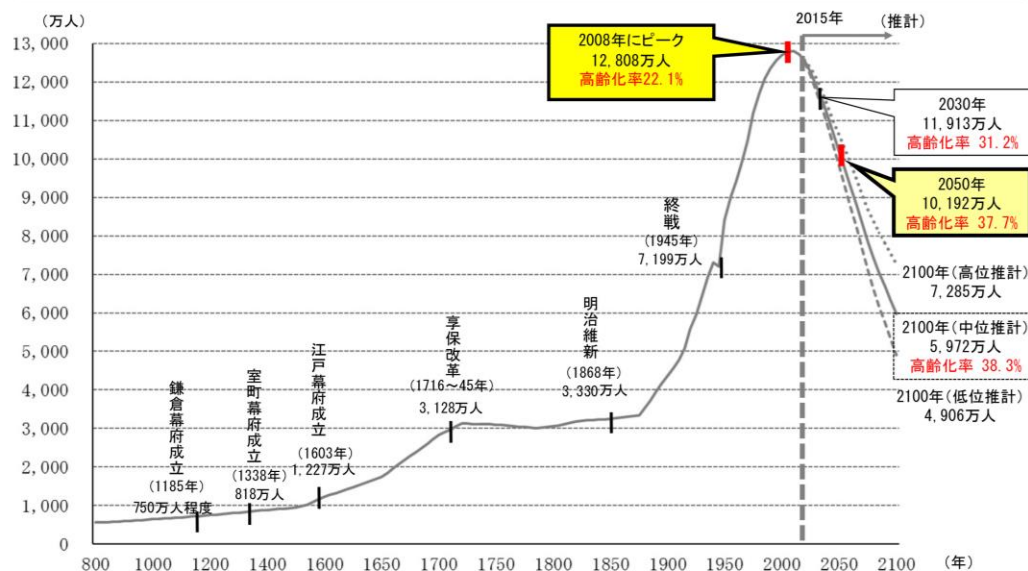
## A-2. 日本の課題

※「国土の長期展望」中間とりまとめ 参考資料(国交省)から引用

### 人口減少の時代へ

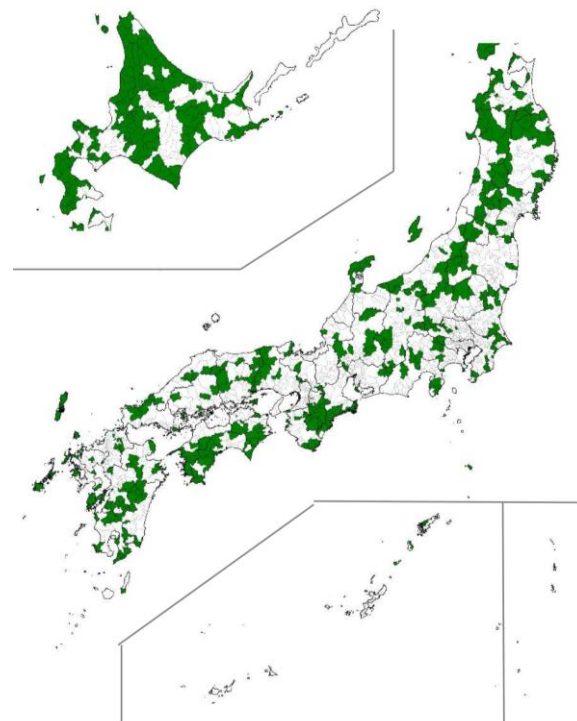
#### 日本の総人口は2050年には約1億人へ減少

○ 日本の総人口は、2008年をピークに減少傾向にあり、2050年には約1億人にまで減少する見込み。



(出典)1920年までは、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)、1920年からは総務省「国勢調査」。なお、総人口のピーク(2008年)に係る確認には、総務省「人口推計年報」及び「平成17年及び22年国勢調査結果による補完補正人口」を用いた。2020年からは国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」を基に作成。

#### 2050年までに人口半数未満となる市区町村の分布



※出典：国土交通省「『国土の長期展望』最終とりまとめ」令和3年6月

人口が減少していく時代を迎えており、日本全体で町の空洞化などをきっかけに様々な課題となっています。特に人口の少ない市町村において、直面している大きな課題です。

## A-3. 課題解決の糸口①

### 地域一体で推進する「まちづくり」

地域と共にあることを重視し、地域を無視した開発・取り組みにならないよう、「まちづくり」を意識して取り組みます。

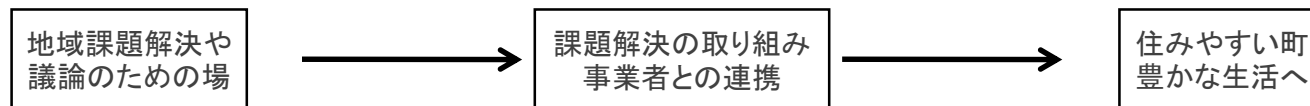
※投資に伴う開発や事業性を考慮した取り組みゆえに、地域とのすれ違いが発生しやすいものでもあります。

地域活性化を目的とし、持続するための事業であります、「地域と共に取り組む」と捉えることが重要です。

【地域の現状課題や将来のビジョン共有として】



【地域住民自らの暮らしを豊かにするための取り組みとして】



..... 地域一体での取り組みがより一層の魅力となる .....➤

地域活性化に向けた事業を実施展開していくために、地域内でビジョンを共有し、地域住民と協働で「まちづくり」に取り組めます。

## A-4. 課題解決の糸口②

### 地域に光を当てる取り組みとしての「観光」

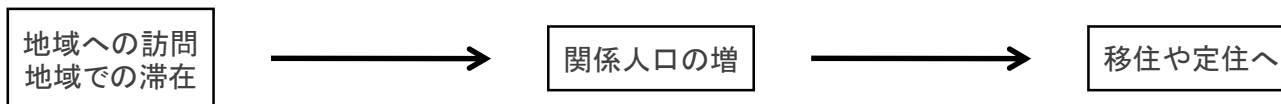
地域に光を当てることで、目を向けさせ、地域と外部とをつなぐために「観光」の取り組み・情報発信を行っていきます。

※人口減少に伴う地域衰退の対策として観光産業の活性化を狙うのではなく、  
「地域の魅力を高め、地域を面的に発信するための取り組み」と捉えることが重要です。

【地域の魅力発信として・持続可能な事業として】



【人をつなぐ取り組みとして】



..... 内外の人の関わりが地域の活力アップへつながる .....➡

人口が少なく、経済的な負担割合が大きい地方に残されている可能性の一つが「観光」です。  
地域外に地域の魅力を発信することで、外部の人たちに知ってもらい、つながりをつくる取り組みと捉えます。



## A-6. 観光まちづくりについて②

※令和3年度古民家などの歴史的資源を活用した観光まちづくり推進のための調査事業 ナレッジ集(観光庁)から引用

# 日本政府が推進する政策

政府が先導して推進しており、全国各地で取り組みが進んでいます。

### 古民家等の歴史的資源を活用した観光まちづくりに取り組む地域

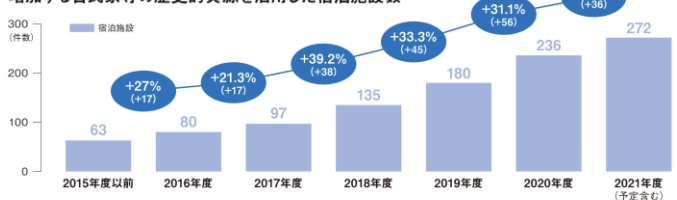
古民家等の歴史的資源を活用した観光まちづくりは、2020年までに少なくとも全国200地域での取組が確認されています。

※古民家等の歴史的資源を活用した事業が開始又は準備されている地域として、現時点で官民連携推進チームが確認している事例や内閣官房の窓口への相談があったもの、関係官庁の助成を受けるなどしたものを地域の単位で事例として紹介したものを。

特に、確認された200以上の地域に対するアンケート調査<sup>a</sup>では、古民家をリノベーションした宿泊施設は毎年コンスタントに拡大していることがわかります。

※2021年9月に実施したアンケート調査。126地域が回答。

#### 増加する古民家等の歴史的資源を活用した宿泊施設数



ゆっくりと農村を散策する(兵庫県丹波篠山市丸山集落)



ゆっくりと朝の時間を過ごす(石川県七尾市大谷地区「大谷ビレッジ」)  
出典:大谷ビレッジHPより <https://onomivillage.com/>

### 全国で展開する歴史的資源を活用した観光まちづくりの取組

出典:観光庁

#### 信越・北陸 33件

新潟県 6件 新潟市南区、長岡市、村上市、上越市、南魚沼市、佐渡市  
富山県 6件 高岡市(山町筋、金屋町)、南砺市(井波、相倉、菅沼)、射水市(小杉、内川)  
石川県 7件 七尾市、小松市輪島市三井町、加賀市(東谷地区、山中温泉)、羽咋郡志賀町、鳳珠郡能登町  
長野県 14件 長野市(七瀬、戸隠)、松本市、小諸市、伊那市、飯山市、茅野市、佐久市(臼田、内山)、東御市海野宿、諏訪郡下諏訪町御田町、木曾郡南木曾町、東筑摩郡朝日村、下高井郡山ノ内町

#### 関西 39件

滋賀県 5件 大津市中央、彦根市本町、長浜市、米原市、犬守郡多賀町一円  
京都府 7件 京都市東山区、福知山市、舞鶴市(宇平、平野屋)、綾部市、南丹市美山、与謝郡伊根町  
大阪府 2件 富田林市寺内町、豊能郡能勢町  
兵庫県 10件 神戸市北野町、豊岡市中央町、丹波篠山市(福住、西町等、丸山)、美父市大屋町大杉、朝来市竹田、淡路市、三田市、神崎郡福崎町  
奈良県 9件 奈良市(城戸町、紀寺町)、五條市五条新町、宇陀市、生駒郡(磯橋町、安堵町)、磯城郡田原本町、宇陀郡曾根村、高市郡明日香村  
和歌山県 6件 有田市、田辺市、有田郡(湯淺町、広川町)、伊都郡九度山町、東牟婁郡串本町

#### 中国 23件

鳥取県 2件 倉吉市打吹玉川、八頭郡八頭町)  
鳥取県 8件 松江市三保岡町、  
出雲市(平田町、雲浦、大社町、大津町、太田市温泉津、邑智郡邑南町日貫地区、美足郡津和野町)  
岡山県 6件 倉敷市倉敷川畔、津山市城東、高梁市吹屋、真庭市豊山地区、蒼田郡鏡野町、小田郡矢掛町  
広島県 7件 広島市湯来町、呉市豊町御手洗地区、竹原市竹原地区、尾道市、福山市(鞆の浦2件)、庄原市

#### 四国 11件

徳島県 3件 美馬市脇町南町、三好市東祖谷村落合、名西郡神山町  
香川県 4件 高松市西穂田地区、丸亀市塩飽本島町五島、三豊市、綾歌郡宇多津町  
愛媛県 3件 宇和島市、喜多郡内子町  
高知県 1件 高岡郡佐川町

#### 九州・沖縄 28件

福岡県 6件 北九州市門司港、八女市福島、行橋市、太宰府市等府、うきは市(浮羽町、香井町)  
佐賀県 3件 鹿島市肥前浜宿、小城市(2件)  
長崎県 4件 雲仙市、北松浦郡小値賀町、平戸市、老松市  
熊本県 2件 人吉市、上益城郡甲佐町  
大分県 1件 国東市  
宮崎県 2件 日南市鉄肥、児湯郡新富町  
鹿児島県 6件 鹿児島市、出水市、霧津川内市帆高、  
南さつま市加世田屋、奄美市、大島郡和泊町  
沖縄県 4件 石垣市、国頭郡本部町(備瀬、北里)、  
鳥取郡伊是名村)

#### 北海道 4件

北海道 4件 国函市(西部、豊川町)、石狩市、二世帯八雲町

#### 東北 18件

青森県 3件 弘前市、黒石市、つがる市  
岩手県 1件 西磐井郡平泉町  
宮城県 2件 柴田郡村田町、仙台郡柴田町  
秋田県 4件 大館市、湯沢市、由利本荘市、潟上市  
山形県 2件 鶴岡市、西置賜郡白鷹町  
福島県 6件 白河市、喜多方市小田村、二本松市、伊達郡桑折町、  
耶麻郡西会津町、大沼郡会津三里町



#### 関東 25件

茨城県 1件 古河市  
栃木県 2件 栃木市轟右衛門町、那須郡那珂川町  
群馬県 4件 桐生市桐生新町、高岡市、  
甘梁郡甘梁町、吾妻郡中之条町  
埼玉県 2件 川越市、比企郡小川町  
千葉県 8件 佐倉市新町通り、流山市、南房総市、  
香取市佐原、長生郡鏡沢町、  
印旛郡酒々井町、香取郡多古町、  
夷隅郡大多喜町

東京都 1件 台東区  
神奈川県 3件 鎌倉市、小田原市板橋、  
足柄下郡湯河原町  
山梨県 4件 北杜市、甲州市、南巨摩郡身延町、  
北都留郡小菅村

#### 中部 21件

福井県 3件 小浜市小浜西組、南条郡南越前町、三方上中郡若狭町)  
岐阜県 8件 岐阜市、高山三町・下二之町大新町、美濃市本住町、美濃町、  
恵那市、飛騨市吉川、下呂市金山町、郡上市、大野郡白川村萩町  
静岡県 4件 静岡市用宗、三島市、掛川市、伊豆市  
愛知県 3件 名古屋市有松、岡崎市本宿町、豊田市  
三重県 3件 伊賀市(川北、上野)、亀山市

人を引きつける地域資源やライフスタイルに根ざした経済活動が磨かれ、地域に賑わいが生まれています。  
地域創生や空き家対策といった多様性を持った取り組みと捉えられており、今では日本政府が推進し、さまざまな関係性が形づくられています。

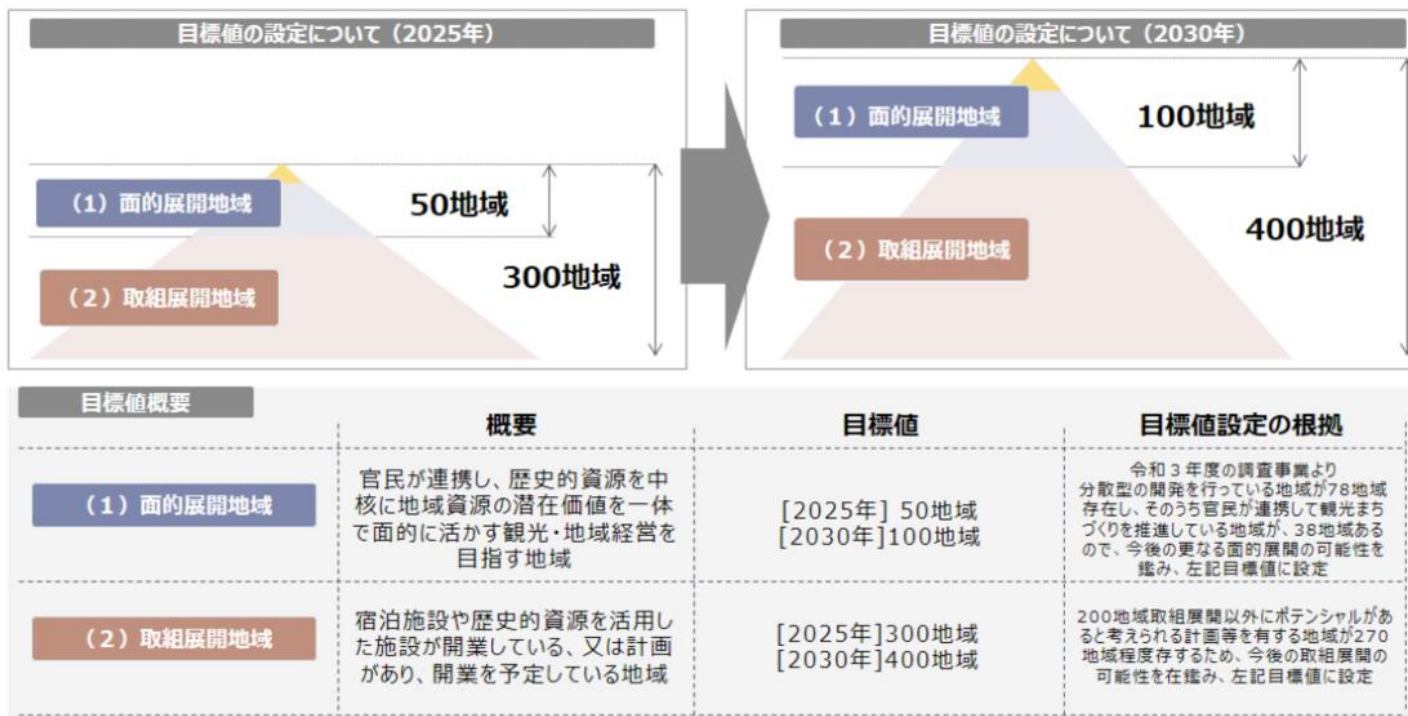
## A-7. 観光まちづくりについて③

※歴史的資源を活用した観光まちづくりの目標値(観光庁)から引用

### 将来的に可能性ある取り組み

政府は、200地域となった観光まちづくりの取り組み地域の質を高め、さらに取組展開地域を増やすこととしています。

#### <新たな目標値の概要>



歴史的資源を活用した観光まちづくりに関して、2030年までに取り組み地域の増加を図っており、「100地域の面的取組展開地域」と「400地域の取組展開地域」を目指すこととしています。

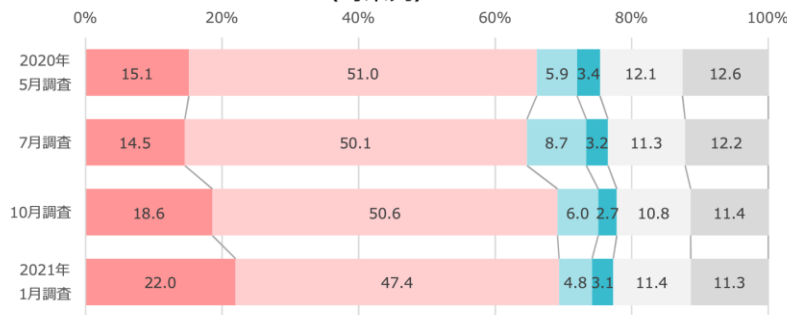
# A-8. コロナ禍の観光動向

※令和3年版観光白書について(観光庁)から引用

## コロナ禍の観光

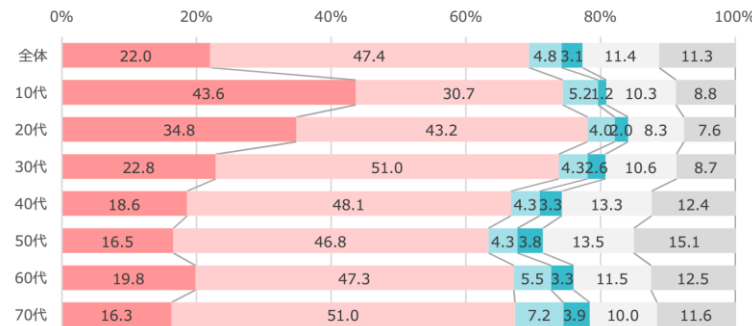
コロナで縮小傾向の観光であるが、形を変えるなどして、アフターコロナを見据えた取り組みともなっています。

(図表Ⅱ-46) 新型コロナウイルス収束後の旅行意向 (時系列)



資料：JTBF「旅行実態調査(2020年5月、7月、10月、2021年1月)」

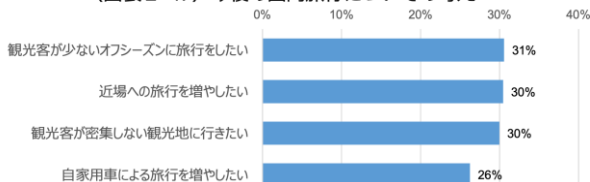
(年代別)



資料：JTBF「旅行実態調査(2021年1月)」

■これまで以上に旅行に行きたい ■これまでと同程度、旅行に行きたい ■これまでのようには旅行に行きたくない ■全く旅行に行きたくない ■新型コロナウイルスが流行する以前も、あまり旅行はしていない ■わからない

(図表Ⅱ-47) 今後の国内旅行についての考え



### 分散型旅行

- 官民一体となって、「人数・時期・時間帯・場所」が分散する旅行の促進キャンペーン実施。
- 旅行・交通系企業等も、平日の利用を促進する商品を開発。
- コロナの状況下では、感染予防等の観点から、一人旅の志向が増加。

理由	割合
ひとりで静かに	62.0
友人らと静かに	47.0
家族や恋人と静かに	47.3
家族や恋人と静かに	37.4
静かに	29.6
静かに	1.8

資料：観光庁「アフターコロナの観光動向に関するアンケート調査(2020年12月8日～12月22日)」

### 滞在型観光

<田んぼランチ>

<土間クッキング>

- 新潟県南魚沼市の旅館「ryugon」では、一年を通じて地域の**素朴な自然や文化・暮らしを体験・体感**できるコンテンツを提供。
- 「田んぼランチ」「スノーピクニック」「土間クッキング」など様々な過ごし方を提案。宿も消費単価向上を実現。

新型コロナウイルス流行により観光動向は大幅に落ち込んだものの、旅行意向は高まり、回復傾向にあります。マイクロツーリズムや滞在型観光への転換など、これまでと形を変えつつも、旅行意識が強く根付いています。

## B. 大川市全体の概況

## B-1. 大川の地域概要

エリア名	福岡県大川市
市町村概要	福岡県大川市 人口: 32,035人 (2023年4月現在) 面積: 33.62 km <sup>2</sup>
特徴	福岡県南部の主要都市である久留米市、大牟田市と佐賀県佐賀市を結ぶトライアングルのほぼ中心に位置する。 九州一の大河「筑後川」の豊かな水量と肥沃な土壌、温暖な気候などに恵まれており、地震や洪水など大きな災害が少ないのが特徴。 市域の大部分が、筑後川下流左岸の三角州地帯で、概ね標高5m以下の平坦な地勢。市の中心部には花宗川が流れ、市域には用水路、排水路、貯水など様々な機能を有するクリークという堀が掘られており、のべ300kmにわたるクリークが市内を縦横に走っている。
産業	主要な産業は、「大川家具」「建具」などの木工業。 筑後川と有明海の豊かな恵による、水稲・いちご・海苔などの農水産業
アクセス	福岡市内から車で1時間 九州佐賀国際空港から車で20分
文化財など	国指定重要文化財「旧吉原家住宅」、「筑後川昇開橋」、福岡総桐タンス、大川組子、大川彫刻、掛川、柳川神棚



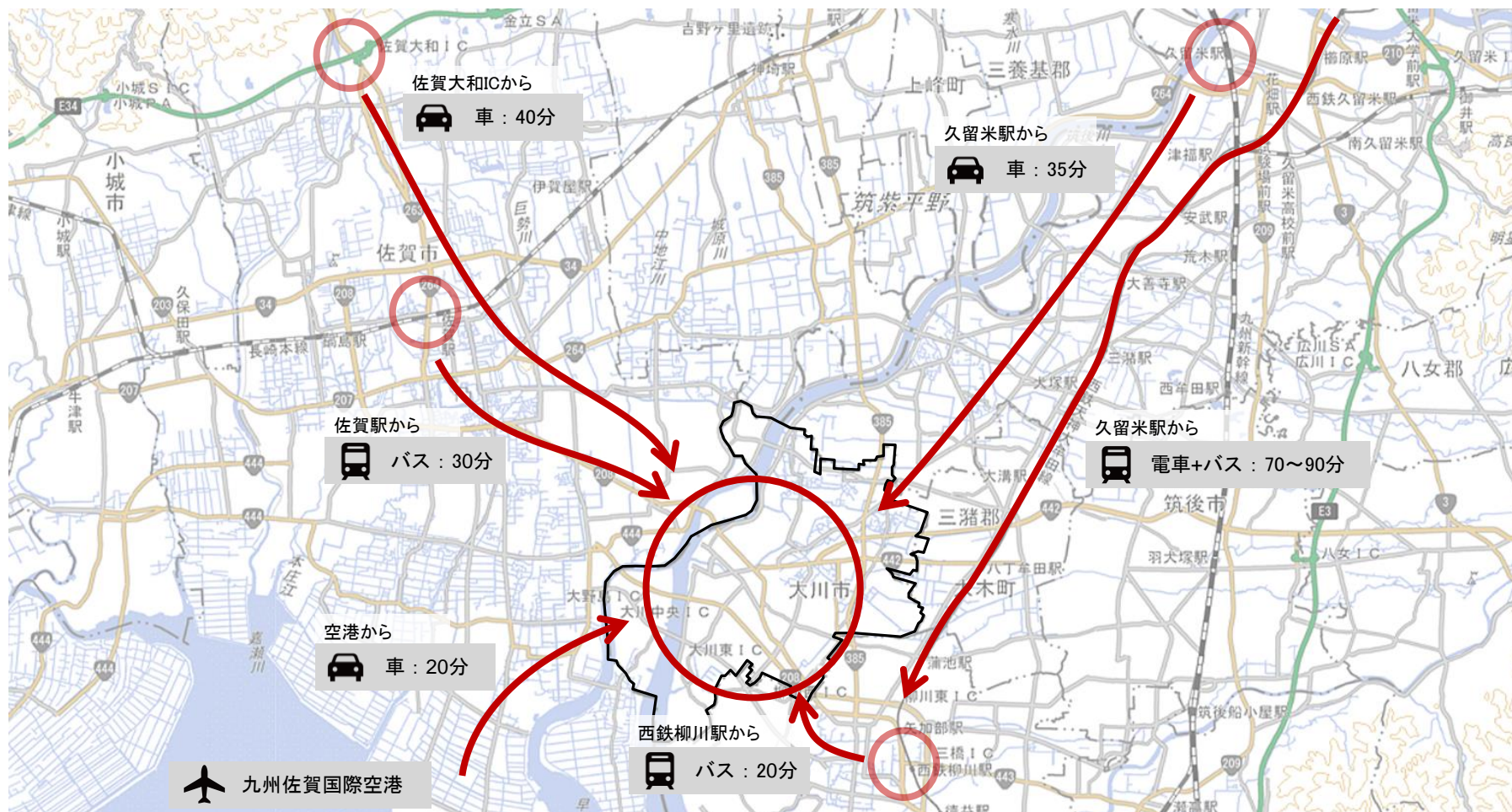
## B-2. 大川へのアクセス(広域)

- ・九州の入口・博多から車や電車を利用し、所要時間1時間30分から2時間ほどのエリア。
- ・福岡空港や佐賀国際空港が圏内にあり、遠方からもアクセスがしやすい地域といえます。



## B-3. 大川へのアクセス(中域)

- ・公共交通では近隣の大きな駅まで電車移動、その先はバス利用というのが基本ルートとなっています。
- ・公共交通利用においては、直行で大川市を訪れるアクセス方法がなく、観光における公共交通利用には課題があると捉えられます。



## B-4. 大川周辺の地形と立地

- ・ 周囲を耳納山地や背振山地に囲まれ、筑後川・矢部川などの河川により形成された九州最大の平野である筑紫平野の中心に位置しています。
- ・ 福岡県の県境の立地で、柳川市、久留米市、三潴郡大木町、佐賀市、神崎市に隣接しています。



## B-5. 大川の伝統工芸

- ・ 大川の伝統工芸は、小保・榎津地区の生業であった造船技術から発展した木工技術です。
- ・ まちの形成と共に発展した技術であり、大川の基幹産業となっています。

### 福岡総桐タンスをはじめとした家具

桐は湿気と呼ばない、燃えにくい、木目がきれいという特徴があり、高級タンスの素材として古くから使われている。大川の総桐タンスは、桐タンスの中でも最高級品である。

### 大川組子(昭和62年指定)

組子とは、くぎを使わずに木と木とを組み付けて作る建具の技法のひとつ。図柄パターンは200種類にも及ぶ。

### 大川彫刻(昭和61年指定)

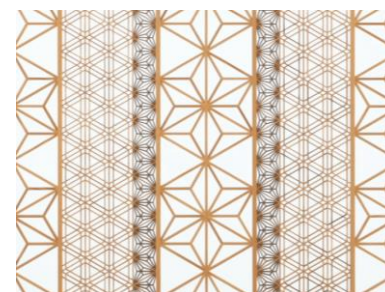
大川彫刻の代表的なものは、住宅の欄間である。透し彫りや、立体的に彫り出す彫刻欄間など高い技術が必要で、筑後地方の神社やお寺、上級武士、大町人の屋敷の欄間などは、小保・榎津の職人が手掛けていた。

### 掛川(昭和54年指定)

様々な色に染色したい草で織った美しい敷物で筑後花ゴザの中でも最高級品である。盆ゴザ、御前ゴザともよばれている。

### 柳川神棚(昭和56年指定)

昔は榎津の長町で製造されていたが、製造地が柳川に移ったことで柳川神棚の名前になった。神棚には、伊勢型、出雲型、太宰府型の3種類があるが、柳川神棚は全国でも珍しい太宰府型である。



## B-6. 大川の祭事・イベント

- ・古くから伝わる伝統の祭りに加え、伝統産業でもある木工や、地域の恵みや偉人のイベントが行われています。

- 2月
- ・風浪宮大祭(裸ん行)
  - ・大川木の香マラソン大会

福岡・筑後地方の三大祭りのひとつで、地元では“おふろうさん”と呼ばれている。三日間にわたり行われ、邪気退散の願いを込めてしめこみ姿で市内を走る「裸ん行」が行われる。



- 3月
- ・古賀政男記念「大川音楽祭」

若津港を開き、若津町発展の基礎を固めた久留米藩主、有馬少将頼僮を祭る若津神社の祭り。町の青年約50人が「庄屋」「雲助衆」に扮してかごを担ぎ、雲助道中唄を歌いながら町内を練り歩く。

- 4月
- ・若津少将祭
  - ・春の大川木工まつり
  - ・藩境まつり

旧柳河藩と旧久留米藩の境のまち、小保・榎津地区で行われる催し。江戸時代のの面影が残り、歴史的価値の高いまちなみを巡りながら、伝統の職人技や文化的催しに触れられる、小保・榎津地区を象徴する祭りである。

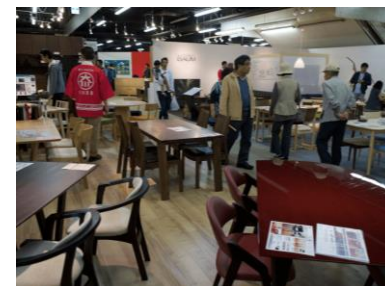


- 5月
- ・大川えつ観光川開き

- 6月
- ・えつまつり & 昇開橋スタンプラリー

- 10月
- ・大川木工まつり、大川市民文化祭

大川木工まつりは大川市きっての一大イベント。家具メーカー200社、約1万点もの家具が一堂に会す「大川家具展示即売会」やパレードやイベント、様々な木工ワークショップや地域の美味しいものが楽しめる屋台などで市内が賑わい、大川市が最も盛り上がる三日間となる。



- 11月
- ・大川市総合美術展
  - ・古賀政男生誕祭

## B-7. 大川の食文化

- ・ 筑後平野の恵みである農作物、筑後川や有明海の恵みである海産物が伝統的な食文化として残っています。
- ・ エツは日本では有明海とその汽水域にのみ分布している魚であり、まさにこの地域独特の食材です。

### いちご

全国でも2位(令和元年農林統計)のいちごの生産量誇る福岡県の中でも、有数の産地いちごの生産地となっている。



### 海苔

有明海は日本の海苔の生産量の約半分を占める海苔の産地。筑後川をはじめとする多くの河川から豊富な養分が流れ込む有明海で、干満差6mという変化の激しい自然環境を活かして生産されている。

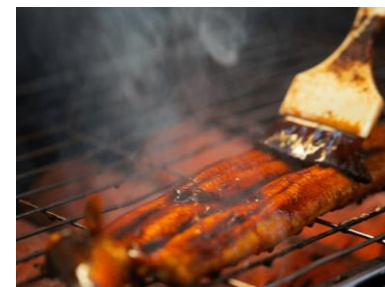
### エツ

海水と淡水の混ざる汽水域に生息する大変珍しい魚で、産卵のために海から川へと遡上してくる時期にしか獲ることのできない魚。限られた場所・時期にしか獲れないことから「幻の魚」と呼ばれ、ここ大川では毎年5月1日の「えつ漁解禁日」から7月頃まで食べることが可能。小柄ながらも脂の乗った身はたいへん滋味深く、刺身、塩焼き、煮つけ、唐揚げ、南蛮漬け、えつ寿司などで食される。



### 川アンコウ

筑後川で獲れた天然ナマズは地元では「川アンコウ」と呼ばれる。味がアンコウに似ていることから名付けられ、高タンパクで低カロリーのため、産後回復の滋養食として古くより食されてきた。臭みがなくあっさりとした味わいは、洗いはじめ、天ぷら、炊き込みご飯や奉書焼きなど様々な調理法で食される。



### ウナギ

かば焼きにした極上のうなぎと錦糸玉子を一度蒸したご飯の上に乗せて、せいろで再びふっくらと蒸す「せいろ蒸し」と呼ばれる、筑後地方特有の調理方法で調理される。

## B-8. 大川の歴史

- ・ 大川市や小保・榎津を形づくってきた大きな歴史的な動きを示します。
- ・ 今もまちなみが残る小保・榎津や若津港の繁栄が、大川のまちの基盤となっています。

### 江戸時代以前

戦国時代は、筑後国柳川城主の蒲池氏の領地。

1537年(天文6年)頃 - 榎津久米之介の伝播により木工が始まる。

1587年(天文15年) - 筑後国三潯郡は、三池郡・山門郡とともに立花宗茂の領地となる。

1601年(慶長6年) - 宗茂が関ヶ原の戦いで敗れた西軍についてため改易され、三潯郡は田中吉政の領地となる。大野島の干拓が始まる。

1611年(慶長16年) - 吉政の死去により、田中忠政が継ぐ。

1620年(慶長20年) - 忠政の死去後、嗣子不在のため、武家諸法度に基づき領地を没収された。筑後国北部は有馬豊氏に、南部は大名に復帰を許された立花宗茂に受け継がれる。

1751年(宝暦元年) - 若津港を築く。

### 近代

1871年(明治 4年) - 廃藩置県により三潯県設置。

1876年(明治 9年) - 三潯県が廃止され、福岡県となる。

1889年(明治22年) - 町村制施行により現在の市域にあたる大川町、田口村、川口村、木室村、大野島村、三又村が成立。

1890年(明治23年) - オランダ人技師ヨハニス・デ・レーケにより、筑後川の中央部に導流堤が造られる。郡制発布。

1898年(明治31年) - 大川町役場が新築される。

1909年(明治42年) - 三潯軌道(榎津駅～羽犬塚間)敷設。大川町に電灯と電話が開通。

1912年(大正元年) - 大川鉄道若津～久留米縄手駅間が開通。

1913年(大正 2年) - 大正橋架橋。

1914年(大正 3年) - 三潯軌道支線の若津～柳川間が開通。

1916年(大正 5年) - 若津港が県営河川港となる。

1921年(大正10年) - 大川鉄道が明治橋駅まで延伸。

1933年(昭和 8年) - 国鉄佐賀線に筑後大川駅開設。

1935年(昭和10年) - 佐賀線が全通。同時に昇開橋架橋。

### 第二次世界戦後

1951年(昭和26年) - 西鉄大川線が休止となる。

1952年(昭和27年) - 日田市からのイカダ流しが中止。

1953年(昭和28年) - 西日本水害で筑後川が大洪水。

1954年(昭和29年) - 市町村合併促進法により、大川町・川口村・大野島村・田口村・木室村・三又村の1町5村が合併し、大川市が発足。

1966年(昭和41年) - 西鉄大川線が正式に廃止となる。

1973年(昭和48年) - 学生専用の渡し舟「学友丸」が廃止。

1987年(昭和62年) - 国鉄佐賀線廃止。

1989年(平成元年) - 三潯郡城島町と境界変更。

1996年(平成 6年) - 昇開橋が遊歩道として開通。

1998年(平成10年) - 三潯郡城島町と境界変更。

1999年(平成11年) - 三潯郡大木町と境界変更。

2000年(平成12年) - 三潯郡大木町と境界変更。

2008年(平成20年) - 有明海沿岸道路が開通。

## B-9. 大川の文化財建築

- ・ 大川の歴史を伝える文化財建築が多く残っています。
- ・ 産業的な文化財として残る筑後川昇開橋は、観光施設となっており、今も人道橋として利用されています。

### 風浪神社本殿・五重塔（国指定重要文化財）通称「おふろうさん」

約1800年前に、神功皇后が新羅御新征よりの帰途に暴風に遭い、白鷺の導きで榎津に無事到着でき、白鷺がとまった樟のある聖地に社殿を立てたのが始まりとされている。有明海における海洋民族の根拠地でもあり、平安時代初期の天慶七年には、東社西社の二つのお社を持つという格式を備え、江戸時代には海上守護の神として大阪廻舟問屋衆をはじめとした信仰や、更には勝運の神として久留米藩主をはじめ国司賢将の厚い庇護を受けている。



### 旧筑後川橋梁（筑後川昇開橋）（国指定重要文化財）

国鉄佐賀線の橋梁として開通したが、廃線後は遊歩道として復活。通常の橋だと干満の影響で船が通れなくなってしまう可能性があったため、中央部の橋が可動して船が通れる構造になった。本橋は橋桁の一部が垂直方向に上下する昇開橋として日本に現存する最古のものである。橋下には干満の差が大きいため、濁土が堆積しやすく、船舶輸送を妨げる事が多かったのを防ぎ航路を確保するため、オランダ人技師ヨハニス・デ・レーケによりデ・レーケ堤が築かれ、今もその姿を見ることができる。



### 旧清力酒造株式会社（県指定文化財）

清力酒造株式会社の事務所として明治41(1908)年に建築されたもので、木造二階建ての洋風建築と和風平屋の倉庫部分から構成されている。室内は洋風と和風が共存しており極めて特徴がある。二階の旧広間には、当時使用されていた西洋家具が展示され、当時の雰囲気再現されています。現在は大川市立清力美術館として、筑後の画家の作品を中心に展示が行われている。



## B-10. 大川の文化財建築

- ・ 大川の歴史を伝える文化財建築が多く残っています。
- ・ 大庄屋や役人など有力者が利用していた建物が今も小保・榎津地区のまちなみを形成しています。

### 旧吉原家住宅（国指定重要文化財）

大規模で細部の意匠に優れ、建築年代も確実なものとして九州でも特に重要な建造物で、柳河藩小保町の別当職を代々努め、後には蒲池組の大庄屋となった吉原家の居宅。主屋の建立は式台玄関の墓股に文政8年（1825）の墨書が残っており、当主吉原三郎左衛門三運により建築されたと考えられ、藩の公用に利用されていた。天保年間（1830～1844）に幕末から遣わされた巡見使の宿泊のために御成門の新造や納戸周りを改造。平成元年3月に大川市指定文化財に指定され、古図をもとに、当初技法を用いて半解体修理で保存修理工事を行った。



### 高橋家住宅（市指定文化財）

二代目四郎兵衛の頃、寛永年間に造酒商売を始めた。延宝8年（1680）に起こった榎津大火で家屋が焼失し、焼跡に居宅を新築。元禄4年（1691）榎津町と改められて以来、浦町の目付役を代々努めている。四代清右衛門は宝永8年（1711）に酢商売を始め、宝暦9年（1759）に五代清右衛門と共に現在の場所に移り住む。現存する主屋はその際に建築されたとみられ、九州では数少ない建築年代18世紀半ばに遡る町屋建築で、西側の離れ屋敷、屋根付板塀、土塀も主屋と一体となって変化に富む貴重なまちなみ景観を形成している。



### 旧緒方家住宅（県指定文化財）

緒方家は、柳河藩の普請役（建築や土木工事の際、武士などに課された夫役）を務め、医業に従事したといわれている。本瓦葺き入母屋造妻入の玄関に式台が設けられ、格式高い造りとなっている。町屋が並ぶ小保の歴史的町並みにおいて、旧緒方家住宅のような武家屋敷は珍しく、玄関の墓股の形式から、19世紀中期の建築と推定されている。柳川城下外の町場に現存する武家住宅として貴重であること、小保の伝統的町並みを構成する建築としても重要な存在であることなどから、平成31年3月19日に福岡県指定文化財に指定された。



## B-11. 小保・榎津の歴史①

- ・ 小保・榎津の歴史は、約480年前、榎津地区が全国から有明海に集まる物資を筑後川の上流地域に運ぶための港として栄えたことに始まりました。これが木工や家具製造のまちになる要因でもありました。
- ・ 港としての繁栄に伴い、造船が生業の地域となり、船大工の技術が活かされました。

### 港と船大工の始まり

全国各地の物資が有明海から筑後川をさかのぼり運ばれる過程で、筑後川の水深が浅いことから、海上交通用の大船が航行できるのが榎津地区一帯までだった。そこで積み荷を小舟に積み替え、上流に運んでいたことで、榎津が有明海と筑後川を航行する船が集中する筑後一の港として栄えた。

1788年：船大工67名、大工2名、1854年：船大工101名、大工41名

#### 室町時代

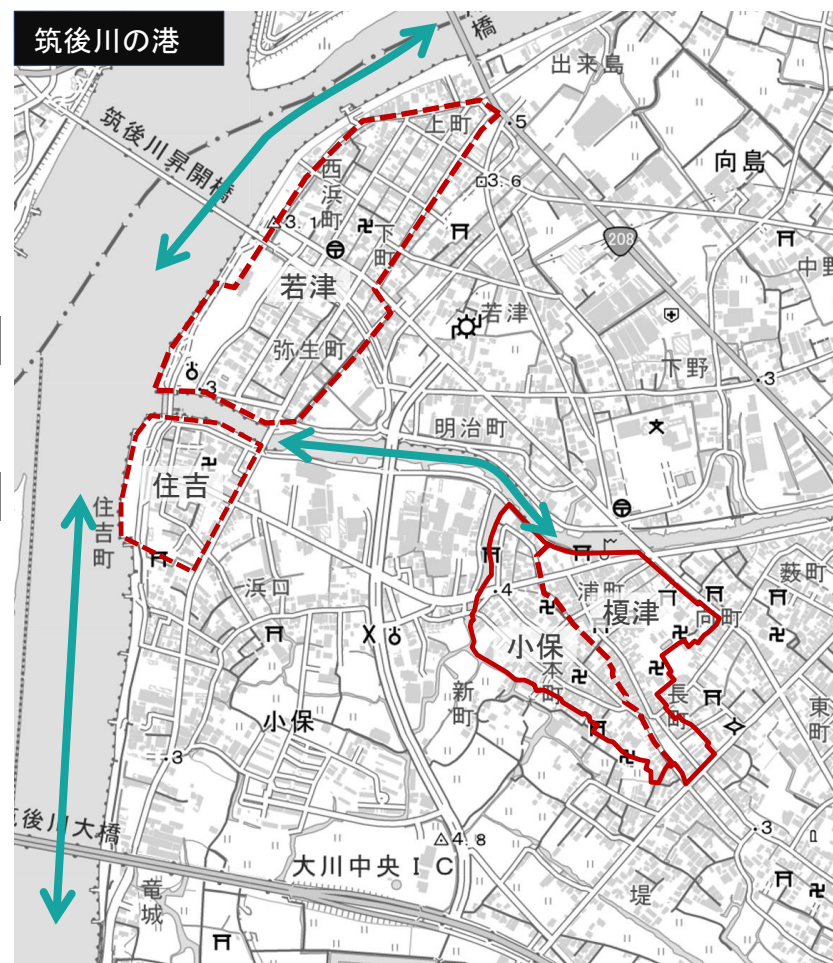
1537年木工の祖・榎津久米之介が家臣のために指物を作らせたことに始まる。その中心地が榎津町の庄分であった。

#### 江戸時代

中興の祖、田ノ上嘉作は文化9年(1812年)榎津長町に生まれ、久留米の細工人に弟子入りし箱物の製作を修得して帰郷。これが榎津指物のはじまりと言われている。

1751年久留米藩が若津港を開港、1774年には柳河藩が住吉に港を開港したことで、筑後川河口の水運の町となる。陸上交通の発達していなかった久留米藩の玄関として重要な港となった。

領外から久留米藩領内に入る物資は、若津港で川船に積み替えられ瀬下港へ運び、領内物資は瀬下港や領内の小河川港から若津港に集められ、海船で各地に運ばれた。また、佐賀藩や柳河藩の米やその他産品も若津を中心とした大川口(筑後川河口の河川港の総称)に集められ出荷されていた。



## B-12. 小保・榎津の歴史②

- ・ 若津は古くから対岸寺井とを結ぶ渡船場として使われるなど海上交通の要所とされており、陸上交通の発達していなかった江戸時代、久留米藩の玄関として重要な港となっていました。(対岸の住吉も柳河藩領の重要地点であった)
- ・ 小保・榎津は若津・住吉と合わせて重要な拠点でした。



1813年に田主丸の豪商林田正助が若津に手津屋蔵を創建。若津と大阪・江戸間を結ぶ航路を開き商圈を拡大させている。江戸後期、若津港の出入りを管理していた三枝家が残した「諸願一件帳」によると、様々な国から船が出入りしており、いずれも大坂・堂島への廻船であった。(周防国29隻、伊予国16隻、大坂11隻、安芸国・筑後国各6隻、長門国6隻、豊前・豊後各2隻、讃岐・肥前・筑前・備前・備後各1隻) 若津港の上流に位置する右馬之丞には公米役所・公米御蔵がおかれ、筑後川の上流日田にある公米を長崎へ運ぶ役割も果たす。その当時、出島で中国・オランダとの交易が盛んにおこなわれていた長崎と、天領日田を船でつないでいた若津港も廻船問屋や遊郭がにぎわう、西日本一の要港となっていく。

## B-13. 小保・榎津の歴史③

- ・造船技術から小保・榎津の家具づくりが生まれました。
- ・明治時代に入って開かれた港と木工が並行して発展していき、意匠や機能などデザイン性を高める様々な取り組みが実施されたと捉えることができます。

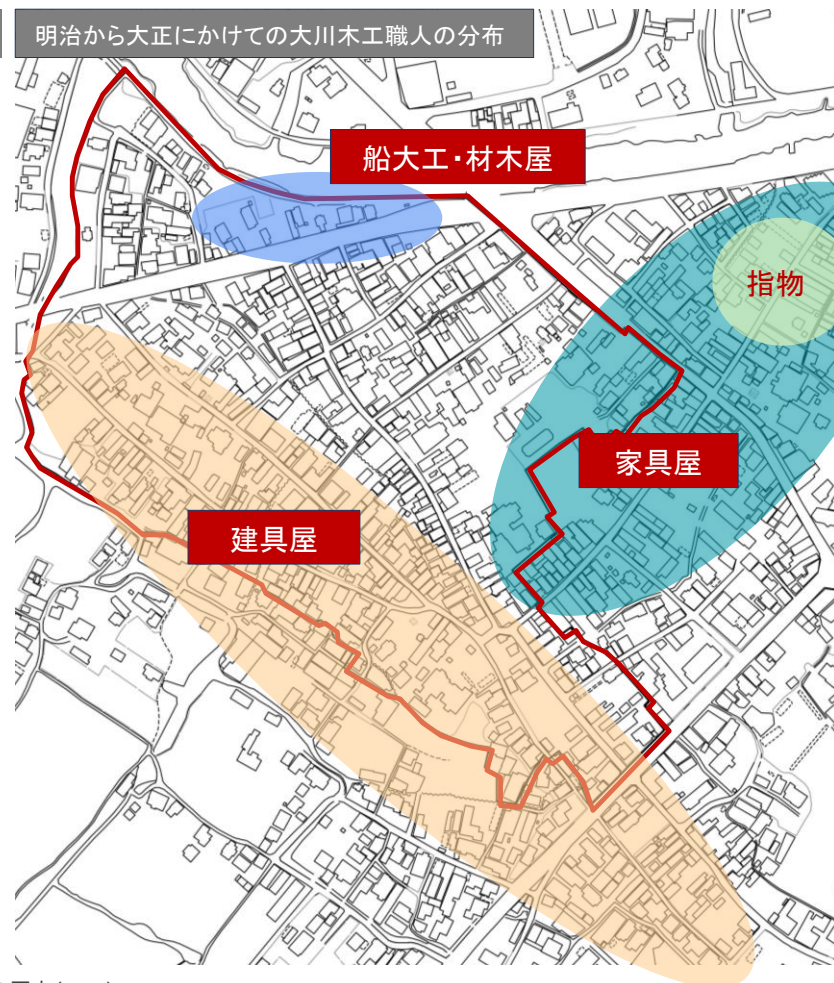
### 明治時代

明治10年頃、大川独特のデザイン、機能を持った衣裳箆笥が生まれた。非常に大型で、材質は杉・桐・樺を使い、素木・透漆・黒塗などで仕上げられているのが特徴であった。また、箆笥の金具には鉄・銅・真鍮などを使い、薄いタガネによる細かな透彫りを施すという手法も大川独特のものだった。当時、ひとつの箆笥が完成するには、1.木挽きによる製材、2.金具製造、3.塗装技術、4.木工職という4つの高度な技術をもった異業種の職人による技術が必要で、その4つの技術の粋を集めた作品が「榎津箆笥」であった。

ヨハネス・デレーケの指導により筑後川の改修が行われ、若津港は外国航路の大型船も来航する港として発展したことで、家具の取引が盛んになった。町域の拡大と共に、木工関係者が町全体の1/4を閉めるようになり、大川町は家具の町として、全国的に知られるようになる。明治末から大正にかけて、大川町にあった深川造船所では指物や船大工の技術を活用した木造蒸気船や鉄道車両が製造され、若津港から出荷されていた。

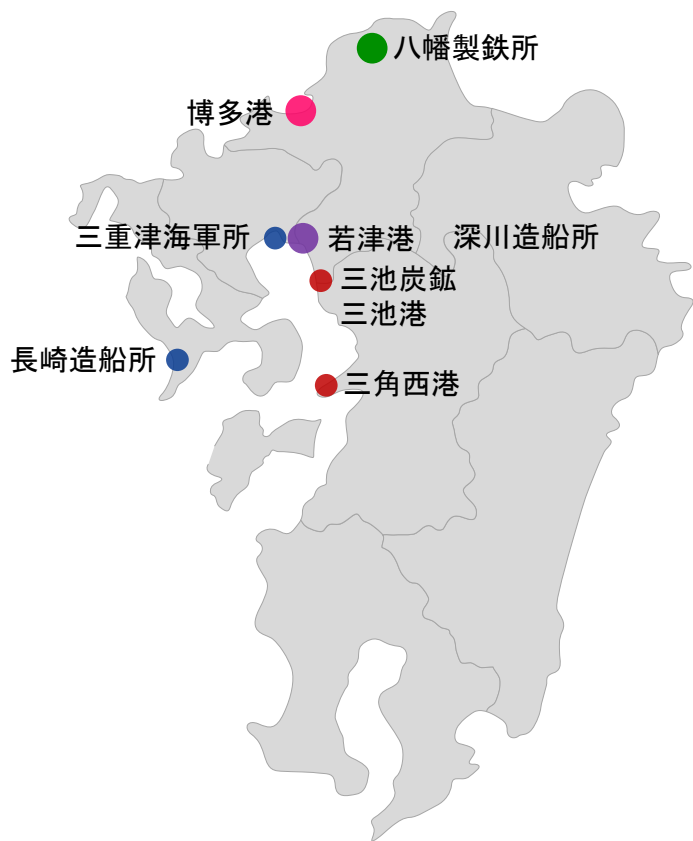
明治43年に大川指物同業組合が結成されたことで、榎津指物から大川指物に呼び名が変わり、木工技術を高めるために工業講習所が設立された。桐ダンスの産地として有名な埼玉県川越から指導者を迎え、タンスの金具、塗りの技術を高め、デザイン性を向上させたことで、大川指物は全盛期を迎える。また、長崎本線の開通や三池鉦の開港により、大量輸送が可能になり、販路も西九州一体や、関西方面へと拡大した。

### 明治から大正にかけての大川木工職人の分布



## B-14. 小保・榎津の歴史④

- ・ 明治初期には往来する船が増加し、九州における一大物流拠点となりました。政府機関や郵便局、多数の金融機関が大川口に進出し、経済の中心にもなっていました。
- ・ 三池港が開港された後は、若津港の港湾機能は次第に低下していきました。



### 若津港のありまし

明治9年「三井物産若津支店」進出。

明治13年、大蔵省常平局若津蔵所が設置された。

明治17年、若津港に深川造船所を創業。大正10年までに15艘の商船を建造し、海軍にも納入していた。

明治18年には政府命令航路として、大阪商船が定期航路「大阪～若津」の運航を開始。

「大阪商船若津支店」「佐賀深川汽船(大川運輸株式会社)」も開業する。

→ この時期博多港と並び、福岡県で一番高い取引高を上げていた。

明治27年、三瀨銀行の前身である鐘ヶ江銀行が誕生し、明治29年には若津へ移動し三瀨銀行となる。

→ このころ若津は筑後地方の経済の中心となっていた。

明治24年九州鉄道門司一矢部川間開通、明治38年長崎本線開通、明治42年門司一鹿児島間開通

→ これらの流れにより、これまで中心だった海上輸送から陸上輸送に移行。さらに明治41年に三池港が開港したことで、有明沿岸の港湾機能は三池港に移る。一方で、鉄道が開通し、家具の流通経路が増えたことにより、家具の流通が増えていく。

## B-15. 小保・榎津の歴史⑤

- ・ 技術の革新によって次第に大川独自の箆笥が作られるようになりました。
- ・ 輸送や時代に応じた工夫がなされたことにより、大川が日本一の家具のまちになりました。

### 大正時代

大正時代に入ると機械を取り入れた製材所が誕生し、大正10年には花宗川の近くに5つの製材所ができる。

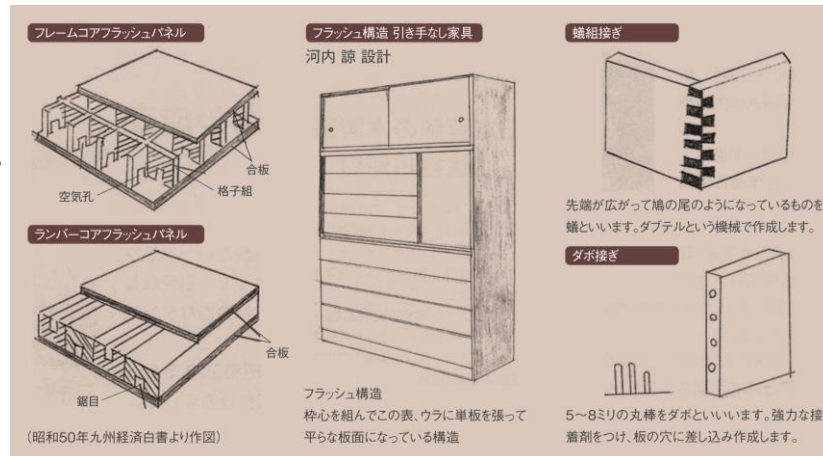
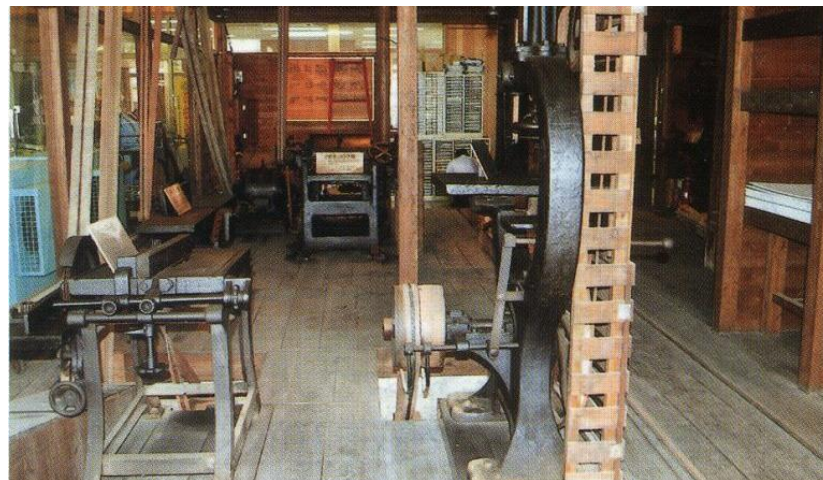
指物業でも機械が導入されるようになってきたが、4つの作業工程を別々の職人がそれぞれ小規模な工場で行っていたため、木工所での機械化はあまり広がらなかった。

### 昭和期

昭和4年に始まった世界恐慌の影響を受け、生産高は半分まで落ち込むが、昭和10年に開通した国鉄佐賀線の筑後大川駅ができたことで、家具生産はさらに盛んになった。

しかしながら昭和12年から戦争が始まると、家具の材料である木材も手に入りにくくなり、若い職人が戦地へと出兵、木工所も軍需品を製造する軍需工場になってしまった。

戦争終了後、昭和35～40年にかけて、住宅新築の激増と戦後ベビーブーム世代の婚礼の増加で家具の生産量が上がり、大量生産に対応するためにフラッシュ構造やダボ工法といった新技術が生まれた。昭和46年には全国的にも最大級の大川産業会館が落成し、昭和54年には生産額1,000億円を超える日本一の家具のまちになった。



## B-16. 小保・榎津の取り組み 街なみ環境整備事業

- ・ 小保・榎津地区での「藩境のまちづくり協定」締結により、平成26年に「街なみ環境整備事業」を導入しました。
- ・ 街なみ環境整備促進区域として設定した小保・榎津地区において、伝統的建造物の保存とまちなみの連続性の回復を図り、郷土に対する誇りと快適な生活環境を提供する取り組みを通して、魅力ある地区の実現を目標としています。

### 「藩境のまち並形成ガイドライン」

地区内で想定される建築行為等に対して、歴史的風致を守り育むための共通のルール(法的規制ではない)を定め、伝統的建造物の修理や伝統的町並みと調和した修景を進め、住民の町並みに対する誇りや愛着の育成にも成果を上げています。



藩境のまちづくり協定が締結された範囲

年度	事業名
平成26年度	①市道庄分町津村口線他改修工事(藩境のまち広場・休憩所前 美装化舗装工事)
平成27年度	②修景施設の外観に要する改修工事(バリ・モンスリー)
	③屋外消火栓設置工事(4箇所) ④藩境のまちづくり啓発支援事業業務委託
平成28年度	⑤城山公園用地買収 ⑥サイン設置工事(べたべたくっごこ通り)
	⑦九州建具工業修理工事 ⑧城山公園整備工事(外構工事) ⑨史跡表示板作成立替工事(2箇所)
平成29年度	⑩浄福寺薬医門修理工事 ⑪史跡表示板作成立替工事(5箇所)
	⑫鶴デザイン事務所新築工事 ⑬城山公園改修工事(トイレ改修工事) ⑭藩境のまちづくり支援事業業務委託(調査業務5件)
令和元年度	⑮藩境のまち並み形成ガイドライン作成業務委託
令和2年度	⑯村尾家住宅修理工事 ⑰本町天満宮修理工事
令和3年度	⑱藩境のまちづくり支援事業業務委託(調査業務9件) ⑲藩境のまちづくり支援事業業務委託(1)(調査業務1件)
令和4年度	⑳中村家住宅修理工事 ㉑旧吉原家住宅周辺整備(道具蔵)事業
令和5年度	

これまでの「街なみ環境整備事業」の実績

## B-17. 小保・榎津の取り組み 藩境のまち保存会

- ・平成28年4月に「NPO法人小保・榎津 藩境のまち保存会」が設立されました。
- ・小保・榎津のまちなみの保全や歴史的建造物を残す取り組みは、保存会によって行われています。

### 小保・榎津 藩境のまちづくり構想と現在の取り組み

「小保・榎津 藩境のまちづくり構想」に保存会の活動体制を定めました。

現在は5つの班活動を通して、その実現に向けて、官民一緒に小保・榎津の町並みの保存活動に取り組んでいます。特に、歴史的建造物を残す取り組みや一緒に町並み保存を進める仲間を増やす活動に力を入れています。

#### 町並み見守り隊



現状の聞き取り調査を行う、建物見守り活動の実施

#### たてもんのバンク班



空き家の所有者と連絡を取り、今後の対策を考える

#### 木工関連団体と連携する班



市内の木工関連団体との関係を築き、価値を共有する

#### 情報発信収集班



保存会の取り組みや空き家情報をwebサイトやSNSで発信する

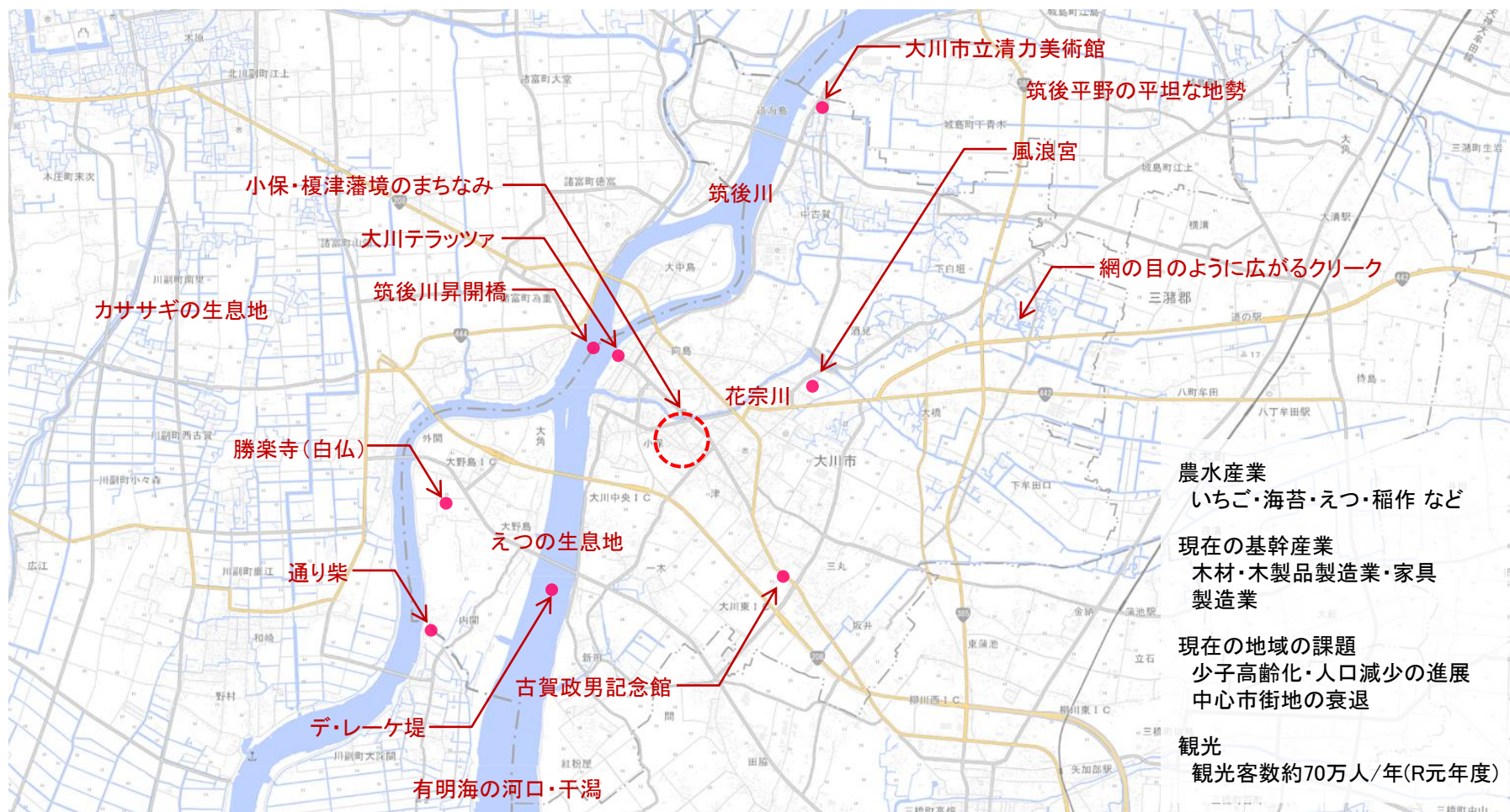
#### 旧魚林活用班



貴重な建物である魚林を活用したイベントを行い、建物の価値や魅力を伝える

## B-18. 現在の大川

- ・ かつての生業が基盤である木工や木材製造業を基幹産業とし、筑紫平野や有明海など地理を活かした農水産業が盛んな郊外の町となっています。
- ・ 他地域でも同様の人口減少や中心市街地の衰退などが現状の課題となっており、対策が必要な地域でもあります。



- 農水産業  
いちご・海苔・えつ・稲作 など
- 現在の基幹産業  
木材・木製品製造業・家具製造業
- 現在の地域の課題  
少子高齢化・人口減少の進展  
中心市街地の衰退
- 観光  
観光客数約70万人/年(R元年度)

## B-19. 今後の大川

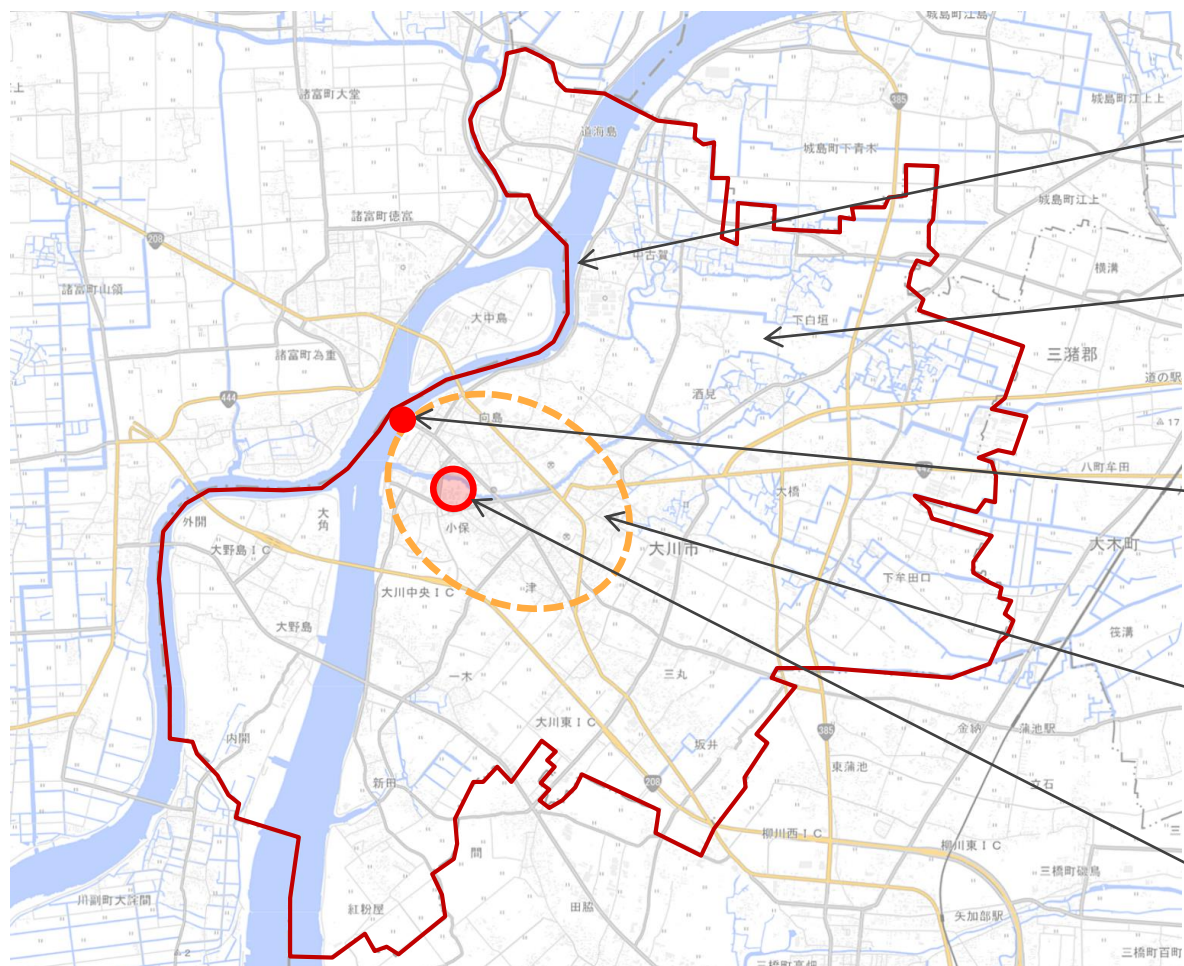
- ・ 交通の拠点と円滑にするための道路が整備され、車でのアクセスが容易になり、観光客の増につながりつつあります。
- ・ 産業と観光振興を軸に地域の一体的な経済活性化を図り、福岡都市圏・北九州都市圏に匹敵する経済圏域を形成するため、道の駅・川の駅機能をもった「(仮称)大川の駅」が令和9年度の開業を目指し整備されています。



## C. 小保・榎津エリア分析

## C-1. 現在の大川市のエリアイメージ

- ・ 現在の大川市の各エリアのイメージのプロットしてみました。
- ・ 大川の都市計画や将来のビジョンに沿ってそれぞれのエリアの方向性を地域で共有できるとよいと考えられます。



筑後川沿い  
筑後平野を形成してきた地域の象徴である筑後川

筑後平野エリア  
地域特有のクレークや広大な農地の広がりを感じられる筑紫平野エリア

昇開橋周辺  
かつての港の名残を感じられるエリアとして昇開橋がシンボルの観光スポットとなっている。筑後川と有明海の汽水域の雰囲気も感じられる

中心市街地エリア  
家具メーカーが集結し、現代の交通や生活の拠り所となっている市街地エリア

かつての繁栄の名残を感じられる小保・榎津地区エリア  
中世起源で藩境のまちなみに触れることができる

## C-2. 小保・榎津の成り立ち

- 藩境のまちとして2町が隣り合って形成されました。久留米藩・柳河藩ともに榎津江湖を利用し、筑後川から小保・榎津まで船を引き込んでいたようです。
- 藩境のまちの形成理由は明らかになっていないが、史実から久留米藩と柳河藩の交流や共生の痕跡が感じられます。

江戸期の小保・榎津

### 小保(旧柳河藩域)

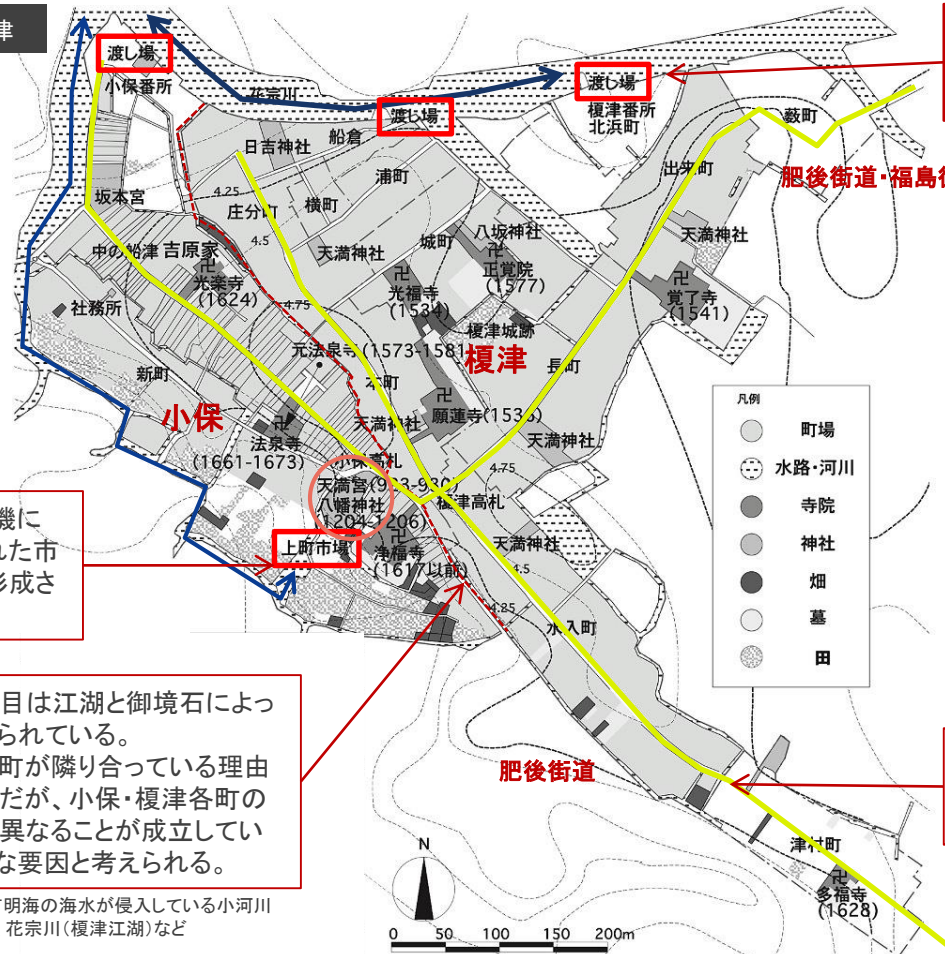
柳河藩領の西北端に位置し、宿駅として、対岸の肥前寺井への渡船場として、河口港としての役割を持っていた。

旧吉原家住宅や浄福寺は、公家や幕府役人・大名などの宿泊所として使用されていた本陣であった。

小保八幡神社の成立を契機に町が展開、門前に開かれた市場と船着場を起源に町が形成されたと考えられている。

藩の境目は江湖と御境石によって区切られている。半境に町が隣り合っている理由は不明だが、小保・榎津各町の特質が異なることが成立していた大きな要因と考えられる。

※江湖：有明海の海水が侵入している小河川や入江、花宗川(榎津江湖)など



長崎から運ばれるものを、筑後川の上流に運んだりもしていた。また古くから漁港基地でもあった。

### 肥後街道・福島往還

### 榎津(旧久留米藩域)

もともと筑後川河口の港町で、対岸の佐賀県諸富町の寺井を結ぶ渡船場であった。藩の御番屋敷もおかれ、江戸や大阪へ運ぶ米を積む港町として栄える。

江戸時代は船大工や木工が生業の中心で小保と異なる性質を持っていた。

### 肥後街道・福島往還

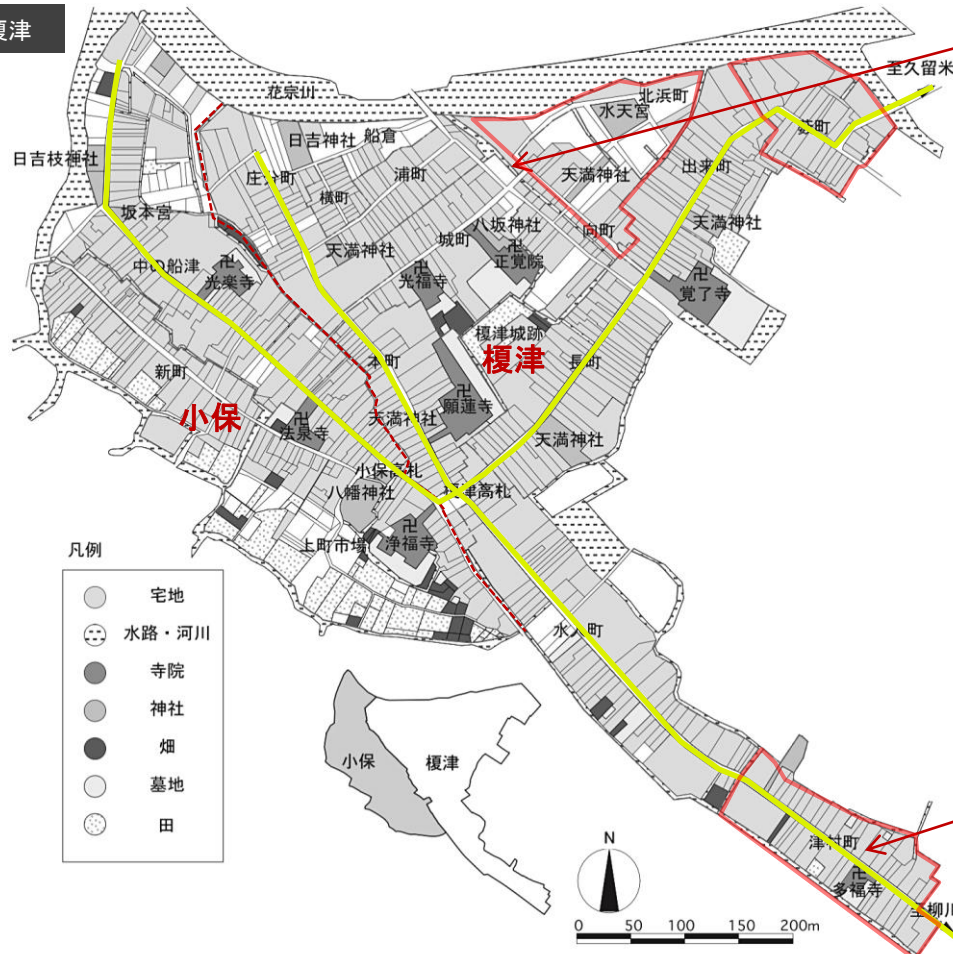
肥後街道は、久留米から榎津、柳川、三池を通して、熊本を結ぶ街道で、久留米と榎津を結ぶ重要な交通路となっていた。

港町の形成や街道の整備から、肥後・筑後・肥前とつながる陸の要所でもあった。

### C-3. 小保・榎津の町割りの変遷

- ・ 中世に成立したとされるまちなみは、近世に入ってから拡張し、近世中期から後期には現在の形に近い明治期のまちなみが組成されたと考えられています。職業構成で町の区割りができていたようです。
- ・ 明治期に完成したまちなみが今も残り、その中でも中世の面影を感じることができるまちなみとなっています。

明治期の小保・榎津



堀が埋め立てられたが、港としての機能もある程度残っていた

若津に港が移ってから103年後に記された資料では、榎津の職業として、印札が出されていた317のうち木工関連が166と半数を超えていた。またこの166中101が船大工であることから主に船を製造していたことが知られる。

また、若津の職業分布は代物小間物問屋や穀物並諸品問屋など問屋が多く、港として機能していたことがうかがえる。小保の職業は、浜問屋、海陸問屋などが残っており、港が移った後もある程度港の機能が残されていたことがうかがえる。

町が街道沿いに拡大している

— 拡大したエリア

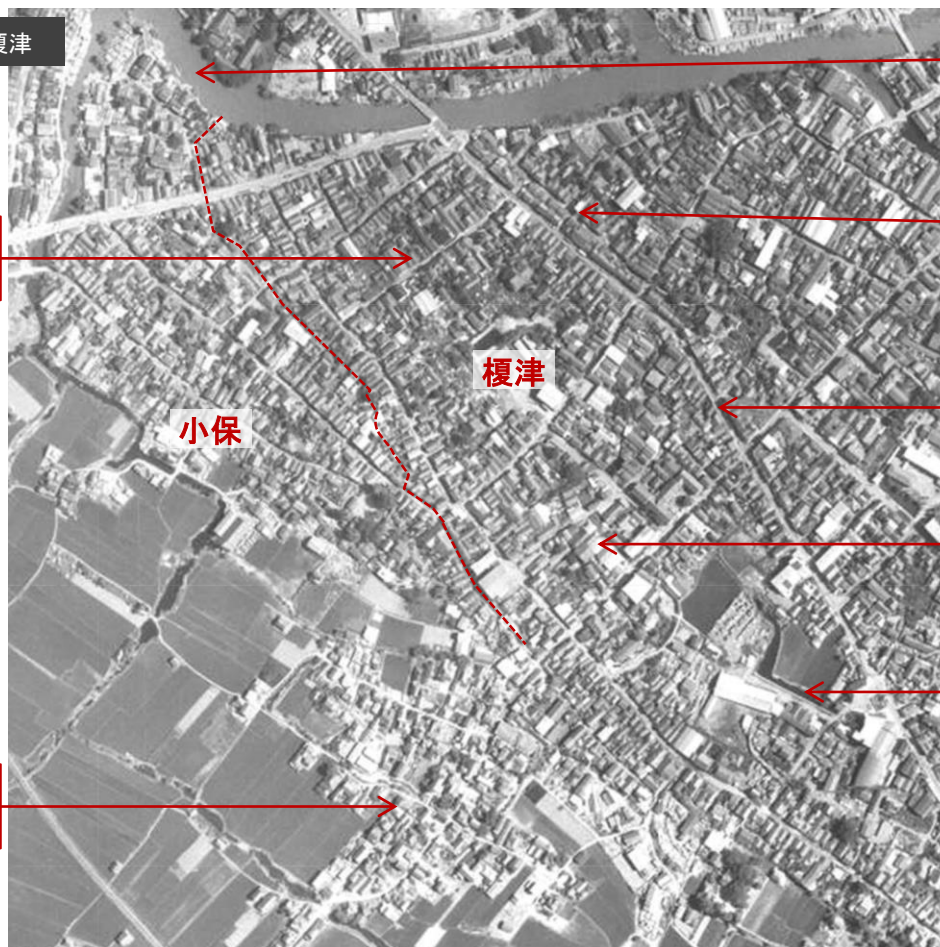
近世中期に港が小保・榎津から住吉・若津に移されたが、その後も小保・榎津は衰退しなかった。その理由としては、職業構成によると考えられる。そのほか、旅人宿や小売店など、宿場町としての機能も持っていた。

この頃、小保の別当の吉原家が住吉の別棟も兼ねること、1851年から吉原家が本庄屋を務めることから、小保も港が移った後も衰退しなかった。

## C-4. 小保・榎津の町割りの変遷 昭和

- ・ 陸上交通に移ったものの、港町の名残や江戸期から続くまちなみを感じさせます。
- ・ 肥後街道・福島往還以外に幹線道路が発達し、周辺地区の市街化が進んでいるのが見て取れます。

1960年の小保・榎津



港としての機能が残っていると  
思われる川辺

建物が概ね同程度の規模で並  
んでおり、秩序感じるまちなみが  
形成されていると思われる。

街道より大きな道路ができいて  
いる。

かつて水路だった箇所も埋め立  
てられている。

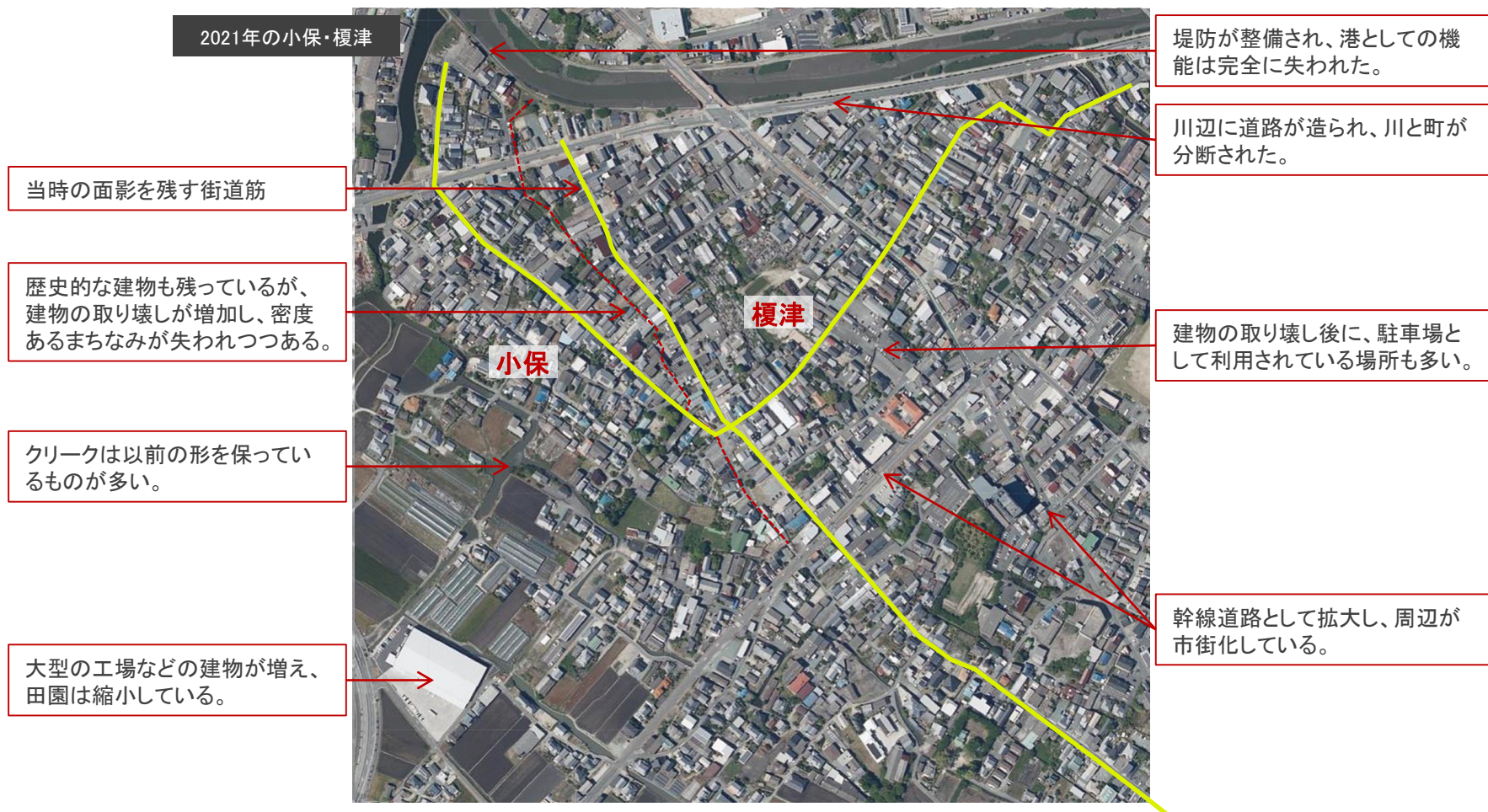
開発が進んでおり、歴史地区の  
境界がわからなくなっている。

建物が連なり、密度あるまちな  
みが保たれている。

周辺の田園地帯も多く残ってい  
るが、市街化が始まっている。

## C-5. 小保・榎津の町割りの変遷 現在

- ・ 昭和期と比べても市街化が進んでいます。
- ・ 中世の町割りは保たれているものの、建物の取り壊し等によりまちなみが失われつつあり、今後の小保・榎津地区のあり方の方向性を定める必要があります。



## C-6. 小保・榎津の空間的特徴

- ・ 生業とともに残っている中世からのまちなみが小保・榎津エリアを形成しています。
- ・ 他の町には見られない要素を複数持っているまちなみ空間であり、一度失ってしまうと現代の制度ではつくりだすことができないまちなみをどう残すかが、小保・榎津の将来を決定づけると考えられます。

小保・榎津のまちなみの固有性

### ①中世に起源を有し、近世に拡大したまちなみであること

周辺市の歴史的なまちなみと異なり、初めから計画的に町建てされたものではなく、小保・榎津は中世の船着場前と神社門前に成立した市町に起源を有し、中世末から近世にかけて拡張されたまちなみである。



### ②まちなみが面的な広がりを見せること

近代起源のまちなみでは、往還に沿って線状にまちなみが展開することが多いが、中世起源のまちなみを中心として、まちなみが面的な広がりを見せる。中世起源のまちなみである特色を有している。



### ③中世起源のまちなみに特有の空間構成が見出せること

中世起源の小保・榎津の中心部の町割と地割は、間口・奥行ともに不均質な形状を示し、宅地の奥行が浅い。近世のまちなみは、間口・奥行ともに整然としていて均質な地割を呈する。

### ④藩政期の街路がそのまま継承されたまちなみであること

近代における道路の整備はまちなみを取り巻いて実施されるが、伝統的まちなみの空間的骨格が承継されている。※この地域も明治期と昭和期の二度にわたって町を貫く街道筋が拡張され、町家に対して二度の軒切りが行われているが、そもそもの町割りが残っている。



### ⑤伝統的産業との密接な関わりを保ったまちなみであること

地域に固有の伝統産業である木工業との密接な関わりを今もなお保った、内実を伴う生きたまちなみである。他歴史的な地域では、かつて町を支えた伝統産業が失われた場合が多い。

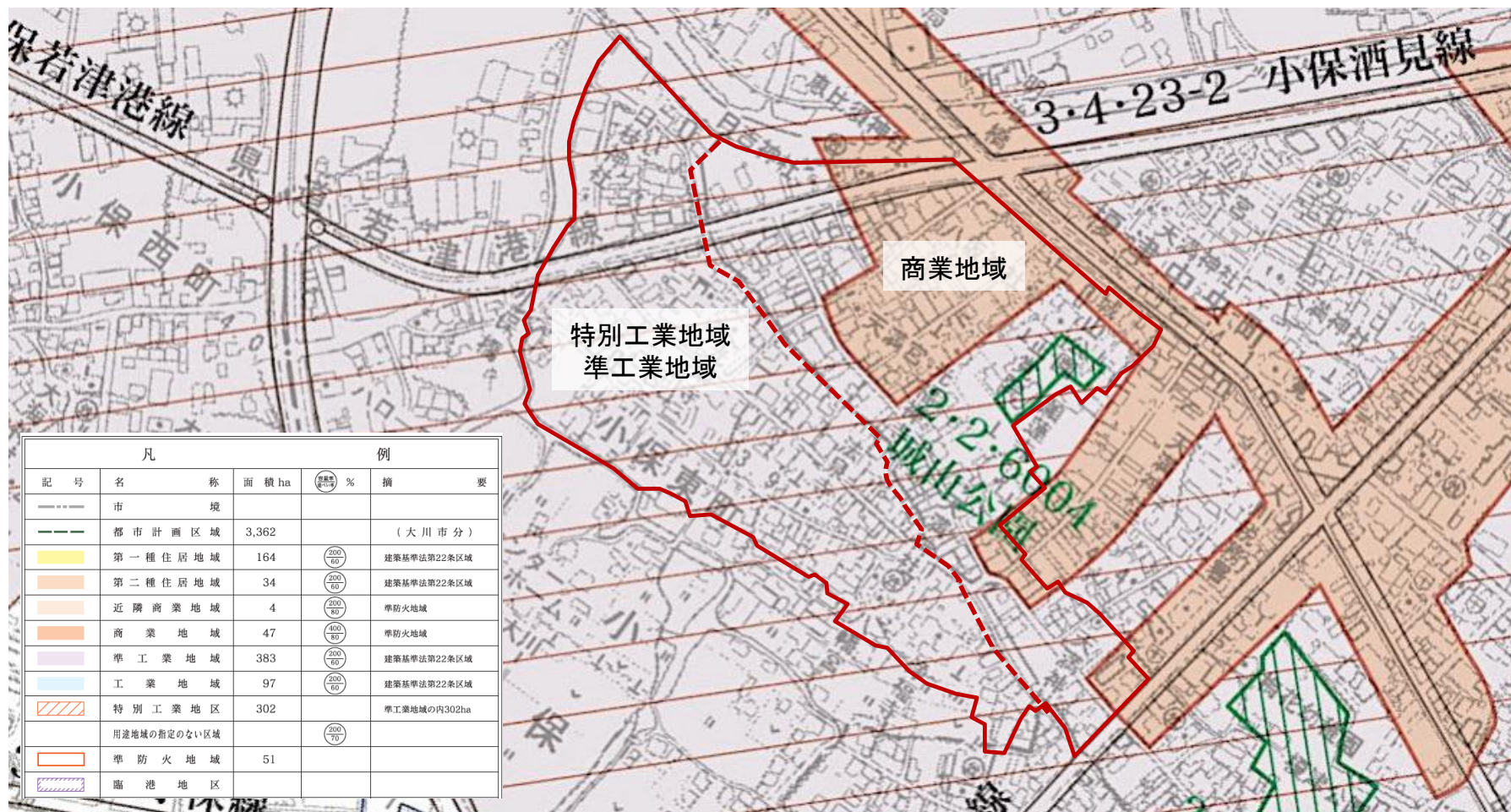
## C-7. 小保・榎津の江湖やクリーク

- ・ 町割りと合わせて残っている江湖やクリークなどの水路も小保榎津の景観を形成している要素の一つです。
- ・ 当時と同様の役割は失われているかもしれないが、エリアの地域資源であり、歴史を伝える景観構成要素の一つとして重要と考えられる。



## C-8. 現在の小保・榎津 都市計画区域

- ・ まちのほぼ全域が特別工業地域に指定されており、県道沿いは主に商業地域に指定されている。
- ・ 小保・榎津のまちづくりの方向性や地域資源の一つである伝統的建物の維持や活用に関連してくるため、現状の都市計画を把握する必要があります。



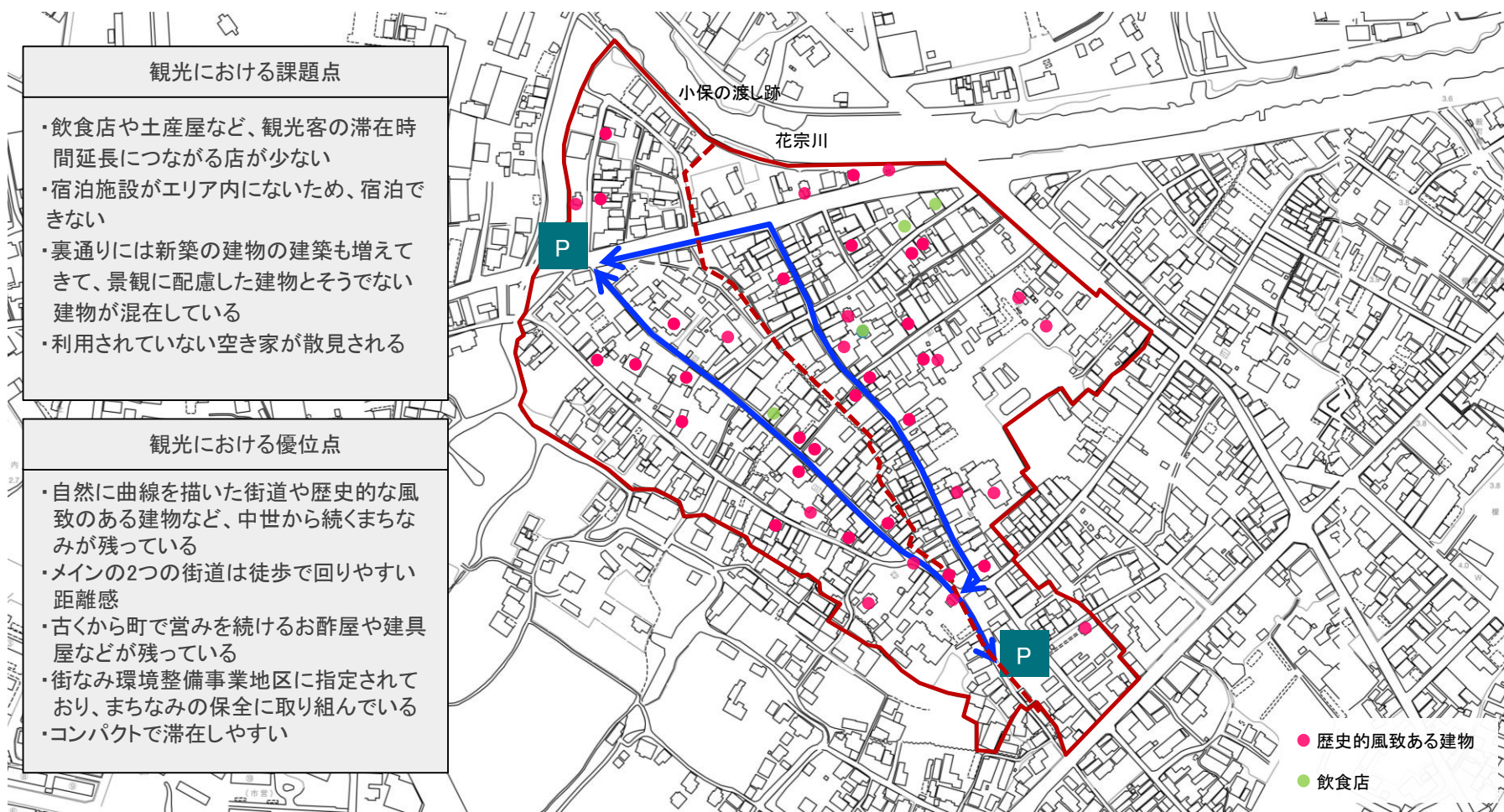
## C-9. 現在の小保・榎津 空間利用

- ・ 木工業の盛んな大川市では、古くから住宅と工場が立ち並ぶまちなみが形成されてきていましたが、住工の共存と調和を図るため、市街地の広い範囲を一律に制限する形で昭和48年に特別工業地区が設定されました。
- ・ 現在は、特別工業地区設定当初と比較すると、家内工業の建物が減少し、住宅地化している傾向があります。



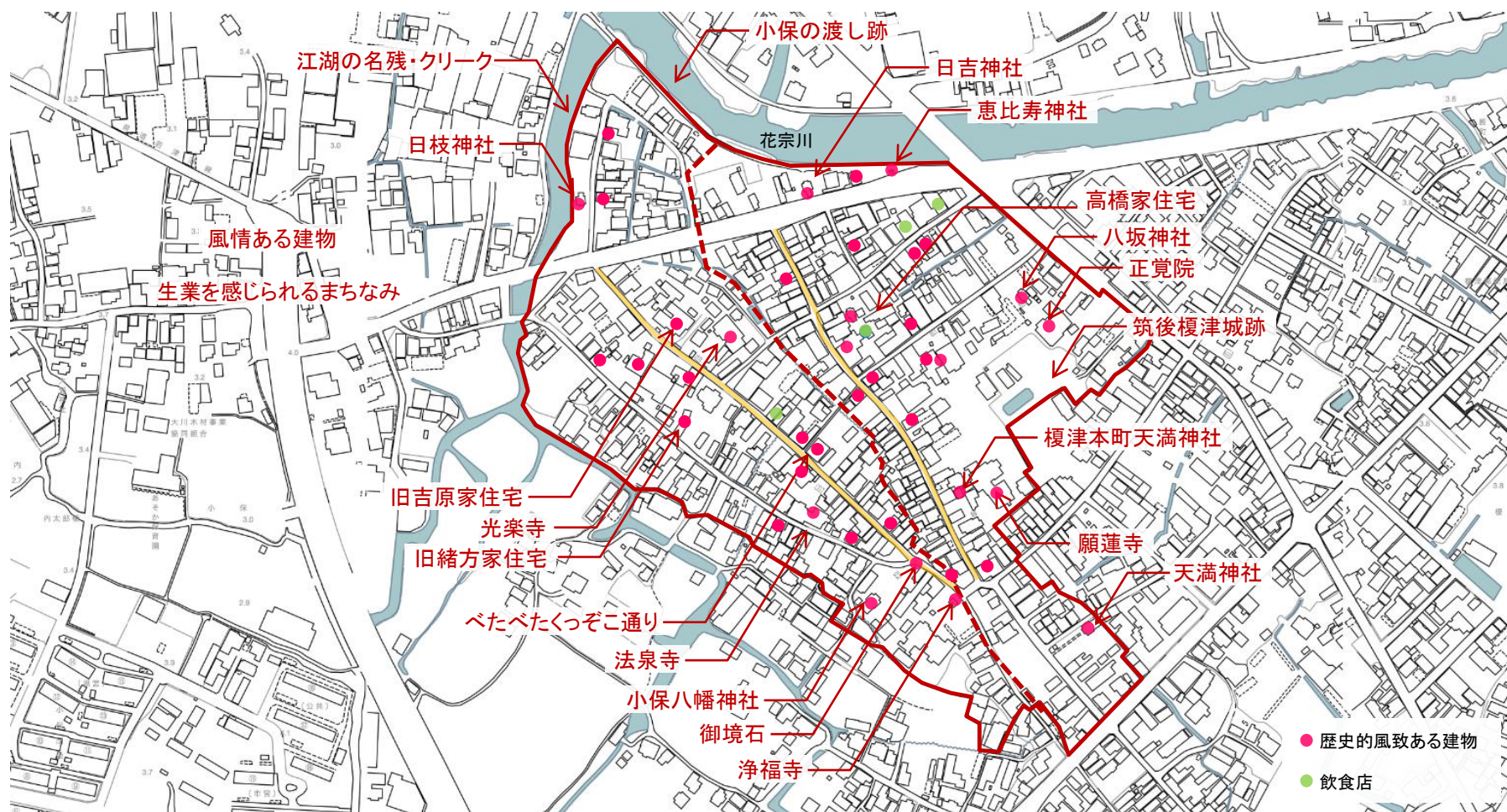
## C-10. 小保・榎津の来訪者動線

- ・小保・榎津の今も残る伝統的な建物やこの地域にある生業や暮らしが感じられる2本の街道筋が、来訪者動線の主動線となっています。
- ・休憩や食事・買い物ができる施設が少なく、滞在時間が短くなりやすいのが来訪者を迎え入れる上での課題です。



## C-11. 小保・榎津エリアの地域資源

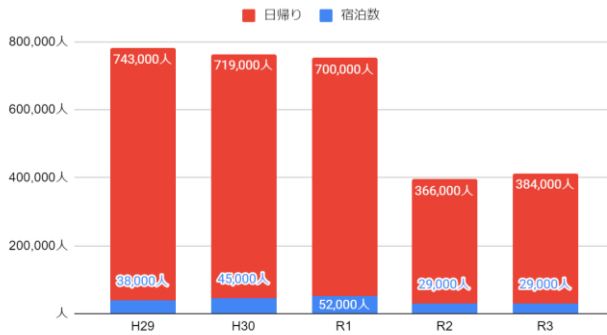
- ・ 中世起源の町割りが歴史的な建物や江湖・クリーク、伝統的な生業などと共にまちなみとして残る貴重なエリア。
- ・ 2本の街道を中心にまちなみが維持されている一方で、解体などによって徐々に失われている状況です。
- ・ 地域の様々な取り組みと合わせて、地域の資源である歴史とまちなみ、それらを支える生業の継承が課題です。



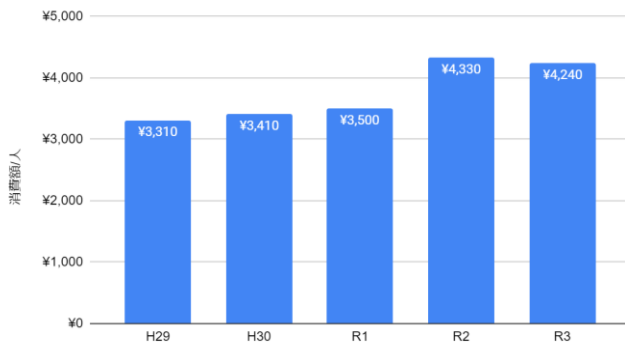
# C-12. 大川市の観光動向 観光客数や大川に対する認識

- ・ 大川家具やそれらに関する取り組みを中心に多くの観光客が訪れていますが、地域で消費されていない・地域外から大川に対する認識が不足しているなど、観光が地域産業化されていない状況です。
- ・ 様々な地域課題の対策としても、「地域に光を当てる」という概念での観光の取り組みは必須と考えられます。

大川市の観光客数



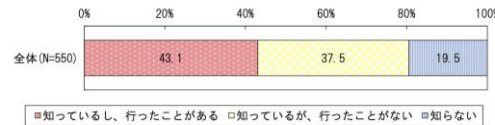
大川市の1人当たりの観光消費額



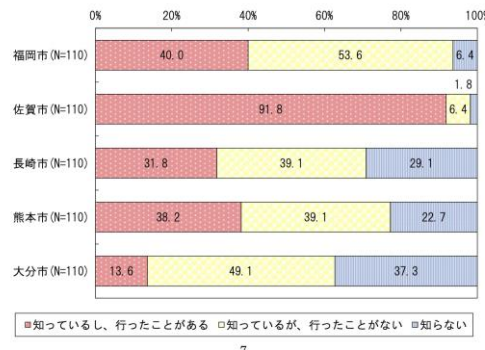
大川市への訪問についてのアンケート

【質問】  
福岡県の大川市を知っていますか。  
また実際に行ったことがありますか。

【全体グラフ】



【地区別グラフ】



大川市の認知についてのアンケート



コロナ禍前は年に70万人ほどが訪れていた。観光が産業にはなっていない。

現状は、福岡県内でも大半の人が大川市を訪れたことがない。

そもそも大川家具以外のことがあまり知られていない。

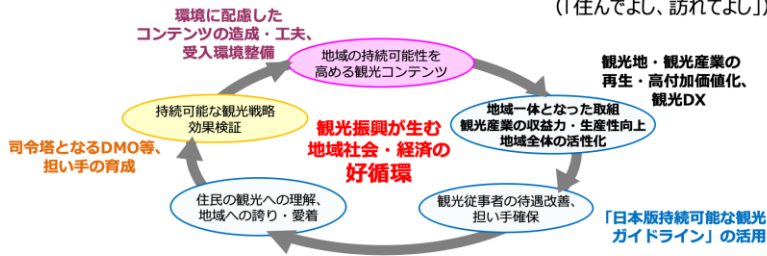
# C-13. 日本国内の観光動向

- ・観光産業はコロナ禍を経て回復傾向にあり、人口減少の時代においても重要な産業となると捉えられています。
- ・今後の国の施策として、産業としての成長だけでなく、地域課題解決や地方創生の起点となるよう観光が位置づけられており、地域づくりと密接に関係してくる産業と考えられます。

## 基本的な方針

### 持続可能な観光地域づくり戦略

- 観光振興が**地域社会・経済に好循環**を生む仕組みづくりを推進する
- 観光産業の**収益力・生産性を向上**させ、**従事者の待遇改善**にもつなげる  
(「稼げる産業・稼げる地域」)
- 地域住民の理解**も得ながら、**地域の自然、文化の保全と観光を両立**させる  
(「住んでよし、訪れてよし」)



### インバウンド回復戦略

- 消費額 5兆円の早期達成に向けて、施策を総動員する
- 消費額拡大・地方誘客促進を重視する
- アウトバウンド復活との相乗効果を目指す

### 国内交流拡大戦略

- 国内旅行の実施率向上、滞在長期化を目指す
- 旅行需要の平準化と関係人口の拡大につながる**新たな交流需要の開拓**を図る

取り組みの3つの軸

1. 持続可能な観光地域づくり戦略
2. インバウンド回復戦略
3. 国内交流拡大戦略

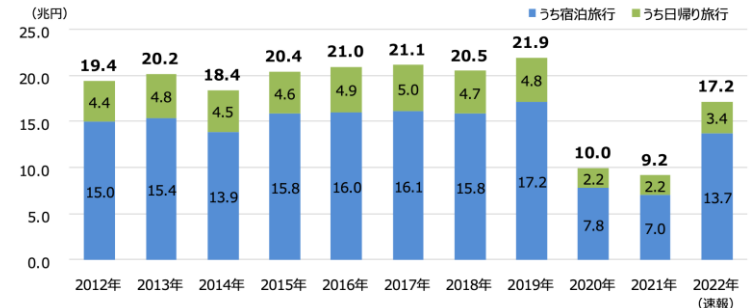
地域へ光を当て、活性化するための取り組みとして実施されている

地域づくりと密接に関わる項目

- ・地域資源の磨き上げ
- ・自然・文化保全
- ・第2のふるさとづくり
- ・持続可能な地域づくりのための体制整備
- ・新しい生業づくり、地域人材の育成
- ・サテライトオフィスやワーケーションの地
- ・公共交通の整備
- ・良好な景観の形成・保全・活用など

地域の魅力を高め発信する取り組みなど、観光を起点に様々な地域課題解決・地域創生を図っている

【図表1】日本人国内旅行消費額の推移



コロナ禍で観光客数や消費額が減少したが、回復傾向にある

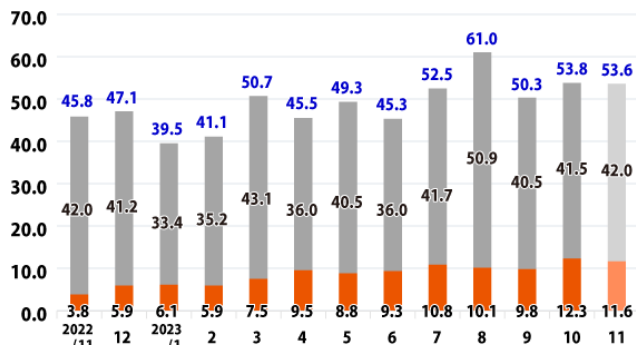
## C-14. 2023年直近の動向

項目	
入国者数	2023年11月の訪日外客数は、2019年同月とほぼ同数となる2,440,800人となり、6か月連続で200万人を超えた。なお、11月までの累計では22,332,000人と2,000万人を突破。個人観光再開から1年が経過し、訪日外客数は堅調に回復している。 (日本政府観光局 2023年12月20日 報道資料)
宿泊者数	2023年11月の延べ宿泊者数は、5356万人泊(2019年同月比+7.9%(前年同月比+16.9%))で完全に回復基調。日本人延べ宿泊者数は4,196万人泊(2019年同月比+3.4%(前年同月比-0.1%))。外国人延べ宿泊者数は1,160万人泊(2019年同月比+28.0%(前年同月比+205.9%))と急激な回復傾向にあり、全体の21.6%を占めている。(観光庁宿泊統計調査 2023年12月26日発表)
消費動向	2023年7-9月期の訪日外国人旅行消費額は1兆3,801億円(2019年同期比16.8%増)、訪日外国人(一般客)1人当たり旅行支出は20万9000円と推計される。 (観光庁訪日外国人消費動向調査 2023年12月28日発表)
ポイントとなるテーマ、キーワード	「持続可能な観光 サステナブル・ツーリズム」「高付加価値化」 「アドベンチャー・ツーリズム」アクティビティ、自然、文化体験 「新富裕層 新たな発見・体験を追求」「多様性(食、性など)」

▶ 延べ宿泊数の推移 (単位: 百万人泊)

やまごころ.jp

▶ 国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数(2023年10月 [第2次速報])



■ 外国人延べ宿泊者数 ■ 日本人延べ宿泊者数

■ 青字の数値は、日本人及び外国人の延べ宿泊者数を合計した全体の数値

出典: 観光庁 宿泊旅行統計調査

順位	国籍(出身地)	合計		2019年同月比	前年同月比
		(人泊)	シェア		
第1位	韓国	1,352,120	13.5%	+291.4%	+424.7%
第2位	台湾	1,338,310	13.3%	+14.9%	+1421.2%
第3位	中国	1,195,620	11.9%	-48.6%	+1062.7%
第4位	米国	1,173,270	11.7%	+69.4%	+310.4%
第5位	香港	543,950	5.4%	+1.8%	+425.3%

出典: 観光庁 宿泊旅行統計調査、やまごころ.jp

## C-15. 各国別の傾向 国・地域別の外国人観光客の特徴 東アジア市場

- ・日本と地理的に近いことから、訪日客の「数」だけに留まらず「リピート回数」が比較的多くなっています。
- ・九州を含め地方への観光機会やニッチな旅への需要も増えています。
- ・市場により、旅行での好みや情報収集方法は様々ですが、どの市場も7割以上はFIT旅行者となっています。



### 中国

- ・個人旅行約70%、団体旅行約30%(2019)
- ・日本、九州では1週間程度の旅行となることが多い。
- ・買物代は依然として他市場より高く、電子決済で促進される傾向にあり。
- ・5Gが中国内で普及。
- ・日本独自の自然景観や体験に対する高い関心。
- ・周辺からの口コミによる影響が強い傾向あり。
- ・訪日経験が契機で、寿司や刺身等生ものを好む。
- ・ライブコマースが流行しており旅行商品の購入も見られる。



### 香港

- ・個人旅行90%以上(2019)
- ・熱心な訪日リピーターが多い。
- ・穴場、テーマを探す観光客が多い。
- ・九州では1週間程度の旅行となることが多い。
- ・レンタカー利用が多く、旅行の自由度が高いことが多い。
- ・グルメでは、和牛に関心が高い傾向。
- ・フルーツが大好きで、フルーツ狩りも人気。
- ・中国政府の方針により、今後FacebookなどのSNSが、中国市場と同様、使用できなくなる可能性がある。



### 台湾

- ・個人旅行約70%、団体旅行約30%(2019)
- ・九州観光では4泊5日～1週間程度の行程が多い。
- ・親日家が多く、リピーターも多い。
- ・四季の自然風景を好む傾向にある。
- ・約1割程度「素食家」といわれるベジタリアンが存在。
- ・牛肉を食べない日がある方もいる。
- ・インフルエンサーの情報発信に対する影響力が強い。
- ・ブログやSNSなどをチェックする方が多い。



### 韓国

- ・個人旅行約90%(2019)
- ・九州は最も近い日本と言う感覚。
- ・2泊3日の週末旅行をする方が多い。
- ・レンタカー利用も多く、自由に穴場へ移動しやすい。
- ・グルメに関心が高く、古民家カフェなどカフェ巡りも人気。
- ・旅にヒーリング(癒やし)を求める方が多い。
- ・温泉にも慣れている。
- ・ブログやSNS、インフルエンサーの影響力が強い。

## C-16. 各国別の傾向 国・地域別の外国人観光客の特徴 欧米豪市場

- ・日本からの距離が遠いことや、富裕層が多いことから、2週間前後と長期滞在する旅行者が比較的多いです。
- ・日本文化(生活文化、文化体験)を好み、自然体験に関する需要も高めとなっています。
- ・今後はヨーロッパを中心としたサステナブルやベジタリアンのニーズが増加することが予想されます。



### アメリカ

- ・個人旅行約93%、団体旅行約7%(2019)
- ・レジャー目的の訪日は2週間程度。
- ・うち九州は3日程度の滞在が多い。
- ・健康志向が強く、ヘルシーな日本食に関心が高い。
- ・ベジタリアンも増加傾向。
- ・自然の中での体験観光(アドベンチャー)が高い。
- ・自国にない歴史や伝統文化(例:禅など)の体験需要が高い傾向。
- ・クルーズ人気は依然として高い。



### オーストラリア

- ・個人旅行約90%、団体旅行約10%(2019)
- ・訪日旅行一般客の平均泊数は13泊。
- ・2週間程度の行程のうち九州は3日程度の滞在が多い。
- ・1人あたりの旅行支出が高く、中でも体験やエンターテインメントのジャンルにお金をかける傾向が強い。
- ・自然、四季折々の自然を好み、特に日本と季節が逆になるので、スノーリゾートへの人気は依然として高い。
- ・近年、ヴィーガンやベジタリアンが急増しており、人口の12%とも言われている。



### イギリス

- ・個人旅行約92%、団体旅行約8%(2019)
- ・訪日旅行一般客の平均泊数は12泊。
- ・うち九州は3日程度の滞在が多い。
- ・訪日初回はゴールデンルートが主流。
- ・中には広島～九州に足を伸ばす人もいる。
- ・日本食や伝統/現代文化のコントラスト、自然景観を好む。
- ・自然に親しむ体験を好む。
- ・サステナブルな旅行を志向することが増えている。



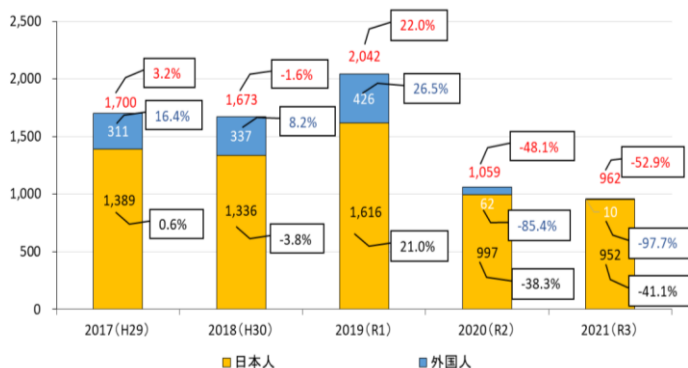
### フランス

- ・個人旅行約90%、団体旅行約10%(2019)
- ・訪日旅行一般客の平均泊数は17泊。
- ・九州は3日程度の滞在が多い。
- ・伝統文化や生活文化を楽しむ層、ポップカルチャーを好む若者層など多様性に富んだ訪日観光をしている。
- ・その国の生活文化を楽しみ、地元の人と交流するスローツーリズムがトレンド。
- ・日本食には健康的なイメージを持っている。
- ・2016年からはポリ袋が廃止となるなど、サステナブルな思考が浸透。

## C-17. 福岡県の観光動向

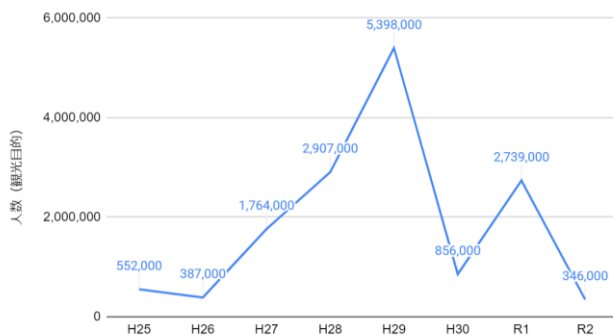
- ・ 福岡県の観光客数は全国的に見ても多いが、筑後地区までの誘導が課題です。
- ・ 福岡県を訪れている訪日観光客は少なくなく、特に韓国、台湾、香港、中国と東アジアの旅行客が8割以上を占めています。観光の取り組みに際して、インバウンドを視野に入れることも重要な要素となっています。

福岡県における延べ宿泊者数の推移



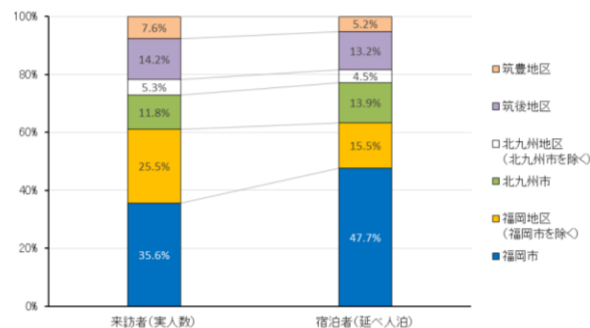
コロナで減少しているが、全国的に見ても多い観光客数

福岡県の訪日観光客数



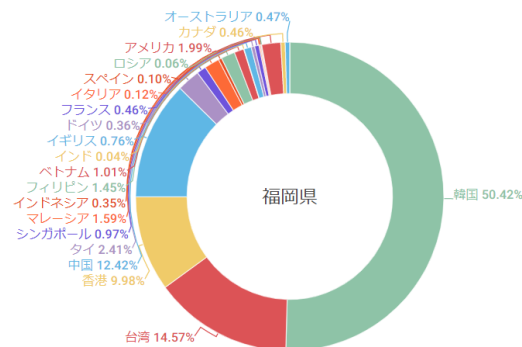
国内外、多くの人に地域の魅力を伝えられる可能性を持っている

観光客の県内各地における分布



筑後地区含む他地区へどう誘導するかが課題

福岡県の訪日外国人の割合(R1年)

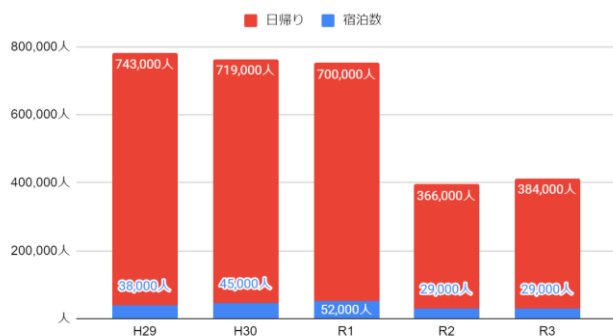


現状は東アジアからの旅行客が多い

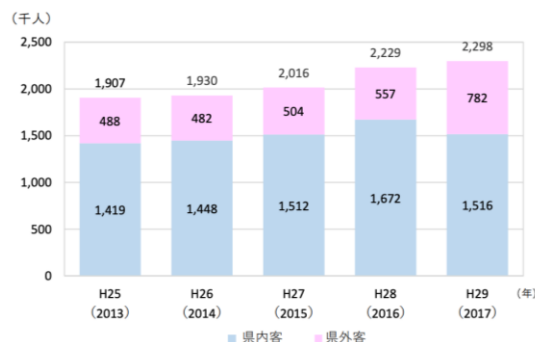
## C-18. 近隣地域の観光動向①

- ・ 久留米には300万人以上、柳川市には50万人以上の観光客が訪れており、地域としての観光ポテンシャルは低くない。
- ・ 近隣地域同様の観光施策を進めなければいけないということではありませんが、地域課題解決のためには関係人口の創出や移住促進などの対策が必要であり、それらを生み出すための観光の取り組みが重要と捉えられます。

大川市の観光客数 36万人(R2)



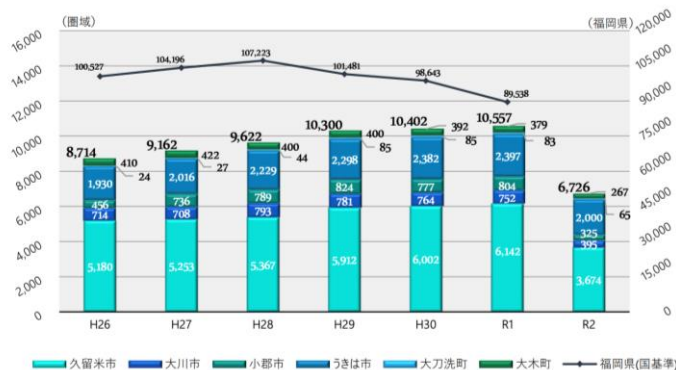
うきは市の県内客数・県外客数の推移



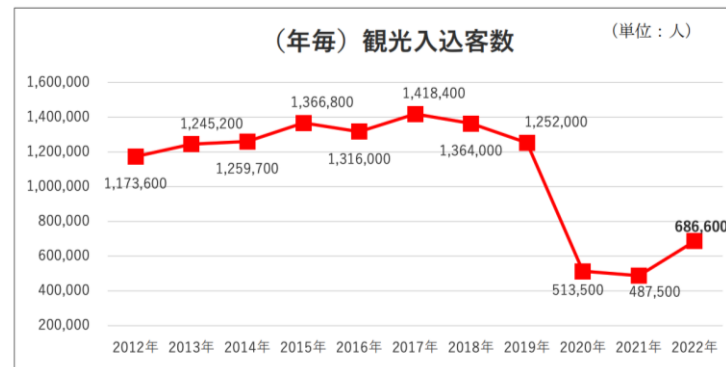
うきは市は県内からの観光客数は横ばい状態が続いているが、県外客数は大幅に増加している。  
訪れる県外客は平成25年から平成29年で60.2%増となっている。

久留米市ほかの観光客数 久留米市360万人(R2)

①観光入込客数(千人)



柳川市の観光客数 51万人(R2)



多くの観光客が訪れている近隣地域では、様々な取り組みで、多くの人に届く情報発信がされており、地域の認識度アップに繋げている

## C-19.近隣地域の観光動向②

- ・ 福岡県は2023年10月の外国人延べ宿泊客数は約46万人泊で、全国第5位と堅調に回復しています。
- ・ 福岡市(福岡空港+博多港)の2023年10月の外国人入国者数は約26万人で、韓国が57%と半数を超え、台湾14%、香港9%と続きます。
- ・ 柳川市は、2017年約25万人の外国人旅行者が訪れています。2022年の宿泊客数(全体)は1974年の観光統計開始以来最多の11万9000人となり、川下りの利用客数は、104.1%増の約15万2600人となっています。
- ・ 佐賀空港国際線の直行便は、韓国・ソウル、台湾・台北、中国・上海に運航しており、2023年10月の入国者は韓国1,648人、台湾1,486人、中国707人となっています。
- ・ 大川市内のホテルによると、コロナ禍前には、年間3,000~4,000人の外国人旅行者が宿泊しており、香港、韓国、欧米などからの旅行者が多く訪れていました。また、2023年12月には、旧吉原家住宅に3組10名以上の台湾人旅行者が訪問しており、受け入れ態勢としては英語のマニュアルを読み上げて対応できるよう、整備を行っております。

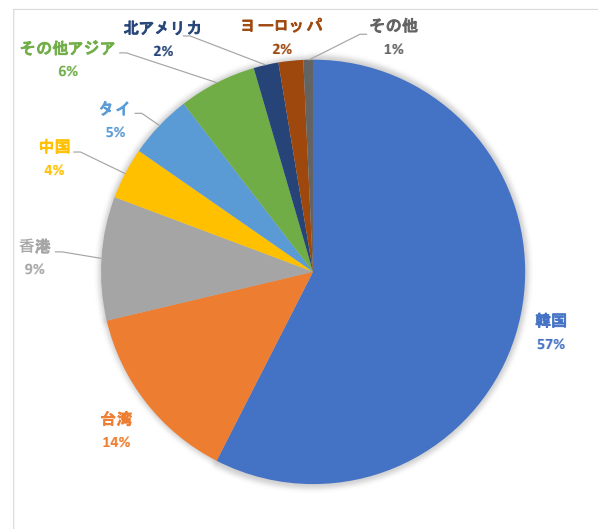
### ▶ 2023年10月都道府県別外国人延べ宿泊者数(第二次速報)

順位	都道府県	延べ宿泊者数(人泊)	2019年同月比(%)
1位	東京都	4,545,380	+68.5%
2位	大阪府	2,001,520	+33.7%
3位	京都府	1,417,920	+20.3%
4位	北海道	523,450	-5.1%
5位	福岡県	459,370	+12.9%
6位	沖縄県	420,920	-29.9%
7位	千葉県	332,150	-13.9%
8位	神奈川県	280,500	-11.2%
9位	愛知県	200,750	-32.6%
10位	広島県	157,190	-4.5%

出典:観光庁 宿泊旅行統計調査

やまごころ.jp

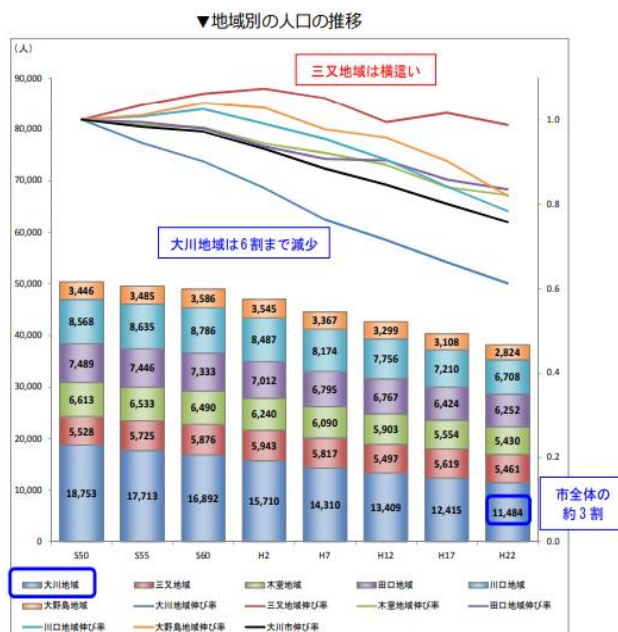
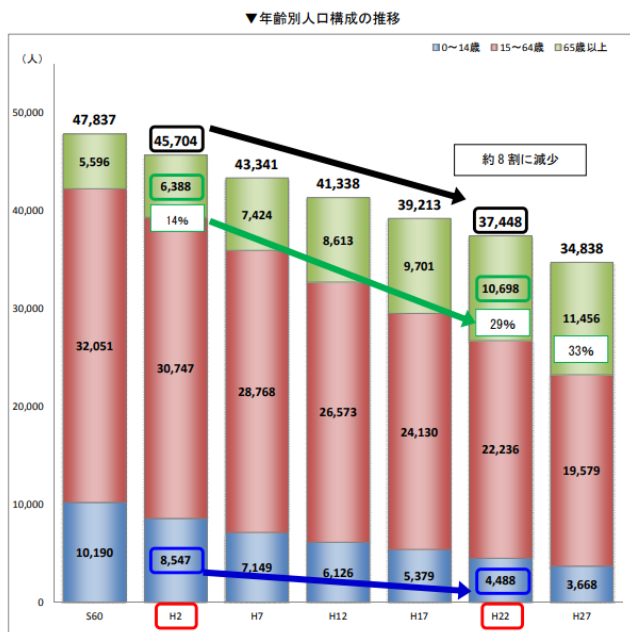
### 福岡市(福岡空港+博多港)2023年10月 国別入国者割合(法務省出入国統計より作成)



出典:観光庁宿泊統計 2023年12月26日発表、法務省出入国管理統計、やまごころ.jp

## C-20. 小保・榎津エリアの課題 人口減少・少子高齢化

- ・ 大川市の人口は昭和40年代をピークに減少傾向にあり、平成2年から平成22年の間で約8,000人減少しており、高齢化率は平成2年の2倍(29%)以上に上昇しています。
- ・ 特に小保・榎津が含まれる大川地域では急速に人口が減少傾向にあります。



大川市の人口は昭和40年代をピークに減少傾向にあり、平成2年から平成22年の間で約8,000人減少している。

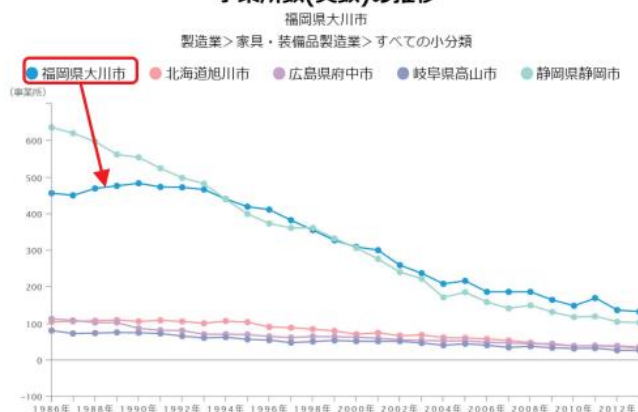
特に15歳未満の人口は減少し続けており、平成2年から平成22年の間で約4,000人減少。一方で65歳以上の高齢者人口は増加傾向にあり、平成2年から平成22年の間に約4,000人増加し、高齢化率は平成2年の2倍(29%)以上に上昇している。今後も高齢者人口は増加すると予測される。

また、大川市を6地域に分けた地域別に人口をみると、小保・榎津が含まれる大川地域に最も人口が集中しており、大川市全体の約3割を占めている。昭和50年と平成22年の人口を比較すると、三叉地域を除いた5地域では人口が減少傾向にあり、特に大川地域では急速に人口が減少傾向にある。

## C-21. 小保・榎津エリアの課題 地域産業・生業の衰退

- ・ 大川市の基幹産業である家具・装備品製造業や木材・木製品製造業が減少傾向にあります。
- ・ 全国5か所の家具の産地と比較しても、大川の家具製造の減少幅が大きく、迅速な対策が必要な状況です。

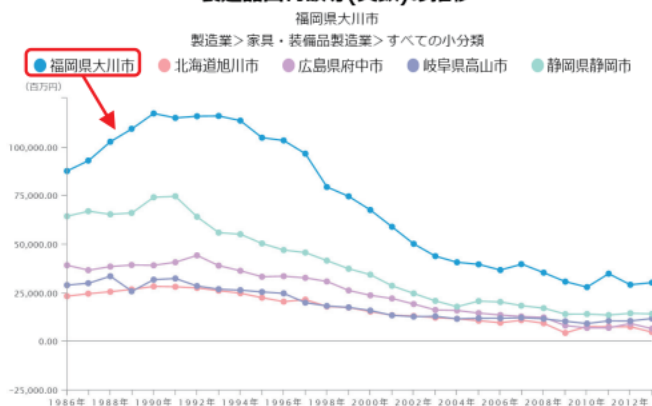
事業所数(実数)の推移



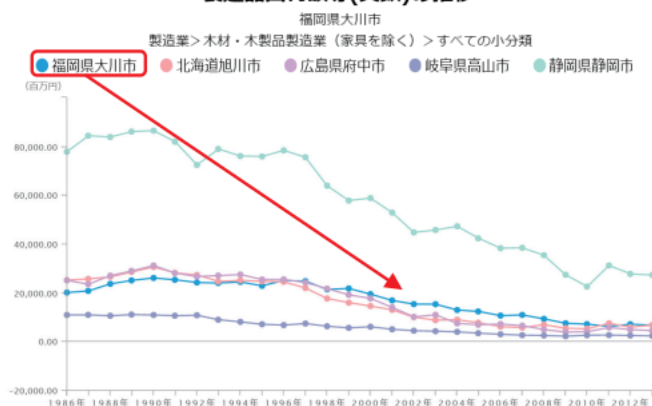
事業所数(実数)の推移



製造品出荷額等(実数)の推移



製造品出荷額等(実数)の推移



大川市の市内産業(中分類)を事業所数(事業所単位)で見た際、「家具・装備品製造業」が最も高く、2番目の「飲食店」に次いで、「木材・木製品製造業」が3番目に多くなっている。

出荷額で見ても「家具・装備品製造業」と「木材・木製品製造業」を合わせると、全体の8割を占めており、大川市の基幹産業といえる。

全国5か所の家具の産地と比較して事業所数および製造品出荷額等の推移をみると、全国的にも減少傾向にあるものの、大川市の減少幅が大きくなっている。

## C-22. 家具産地について

- ・大川と同様に全国で家具生産が盛んな地区が多くあります。
- ・どの地区も豊富な木材と流通が便宜な地勢ゆえ発展した産業であるが、歴史的資源を維持しながらかつての時代から変化する社会環境にどのように対応するかが問われています。

日本の家具産地と呼ばれている地域は、以下のような3つの条件を兼ね備えている。

- ・港や河川など流通が便宜であること
- ・良質な木材資源があること
- ・家具作りの発端となるような建造イベントや人物がある

### 府中家具

立地：中国山地で伐採した木材を芦田川に流して福山方面に流し、近くには石州街道が通った産地。

起源：江戸時代に備後国有磨村の内山円三氏に影響を受けた家具職人が技術を学び、徐々に地域に広まった。瀬戸内海の暖かな気候や適度な雨量が自然乾燥に適しており、良質な木材を提供できることもあった。衣装箆筒づくりで産業として栄えた。

### 大川家具

立地：日田の木材と筑後川の水運を活かすことができた産地。

起源：当時の船大工に指物を作らせていたいわれがある。1877年以降、大川独自の衣装箆筒が作られるようになったことで産業として栄えた。

大型で、材質はスギ、キリ、ケヤキを使用し、素木や透漆、黒塗で仕上げるもの。また、金具には鉄や銅、真鍮などを使用しており、タガネで細かな透かし彫りを施しているのも特徴。

### 徳島家具

立地：阿波国の材木を船で全国に輸出できた産地。

起源：室町時代から木材加工品が作られており、1585年に蜂須賀家政が水軍基地を置き200人ほどの船大工を住まわせた。

明治時代になり、仕事がなくなった船大工たちがはが箆筒や針箱、鏡台や仏壇などを作りはじめ、産業として栄えた。

### 飛騨家具

立地：森林面積が群を抜いた「92%」を誇り、日本随一の豊潤な木材資源に囲まれた産地。

起源：古くから成立していた飛騨高山の木工都市のもと木工職人が育ちやすい土壌を抱えていたことから。

有効活用されていなかったブナを転用した椅子やテーブルなど高級家具で産業として栄えた。

### 旭川家具

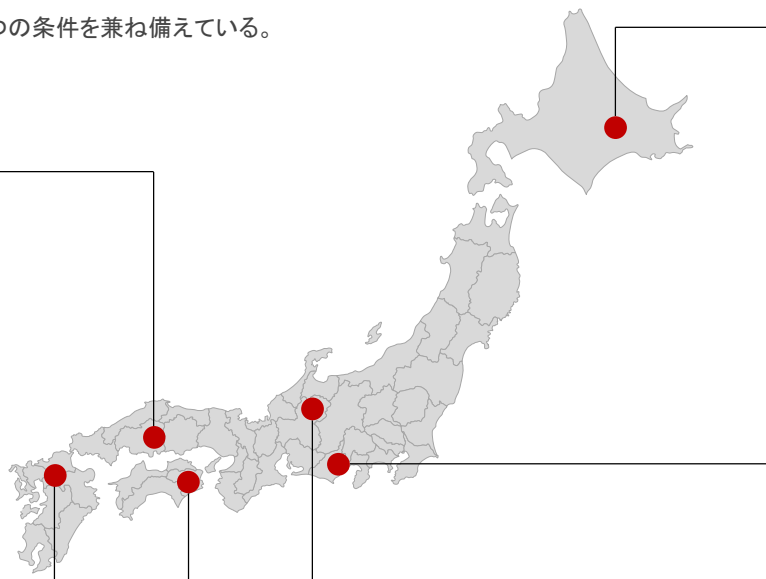
立地：かつては、家具工芸は向いていないとされていた地域であるが、タモ・ナラ・イタヤカエデなど優良な道産材の集積地となった産地。

起源：1899年、札幌市から旭川市へ移駐がはじまると共に、町づくりの一環として国内各地から家具職人が集結。さらに1913年旭川区で木工伝習所を開設され、さらに第一次世界大戦の戦時需要により発展した。冬場の農業の代わりとなる産業が必要だったともいわれている。

### 静岡家具

立地：温暖かつ穏やかな気候で、豊かな森林資源と天然の港である駿河湾に面していた産地。

起源：1635年、徳川家光による浅間神社の大改修工事によるものとされており、上方から移住してきた漆塗り技術を活かした漆塗り家具からはじまり、産業として栄えた。



## C-23. 歴史的まちなみの活用について①

- ・ 歴史的なまちなみの活用において、重要伝統的建造物群保存地区の制度があります。
- ・ 観光まちづくりを推進する他市町村では、重要伝統的建造物群保存地区の制度を活用している地域もあり、福岡県内では、うきは市、朝倉市、八女市で制定されています。

昭和50年の文化財保護法の改正によって伝統的建造物群保存地区の制度が発足し、城下町・宿場町・門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになりました。市町村は、伝統的建造物群保存地区を決定し、地区内の保存事業を計画的に進めるため、保存条例に基づき保存活用計画を定めます。国は市町村からの申出を受けて、我が国にとって価値が高いと判断したものを重要伝統的建造物群保存地区に選定します。

市町村の保存・活用の取組みに対し、文化庁や都道府県教育委員会が指導・助言を行い、また、市町村が行う修理・修景事業、防災設備の設置事業、案内板の設置事業等に対して補助し、税制優遇措置を設ける等の支援を行っています。

令和5年12月15日現在、重要伝統的建造物群保存地区は、105市町村で127地区（合計面積約4,034.5ha）あり、約30,250件の伝統的建造物及び環境物件が特定され保護されています。



朝倉市秋月



八女市黒木



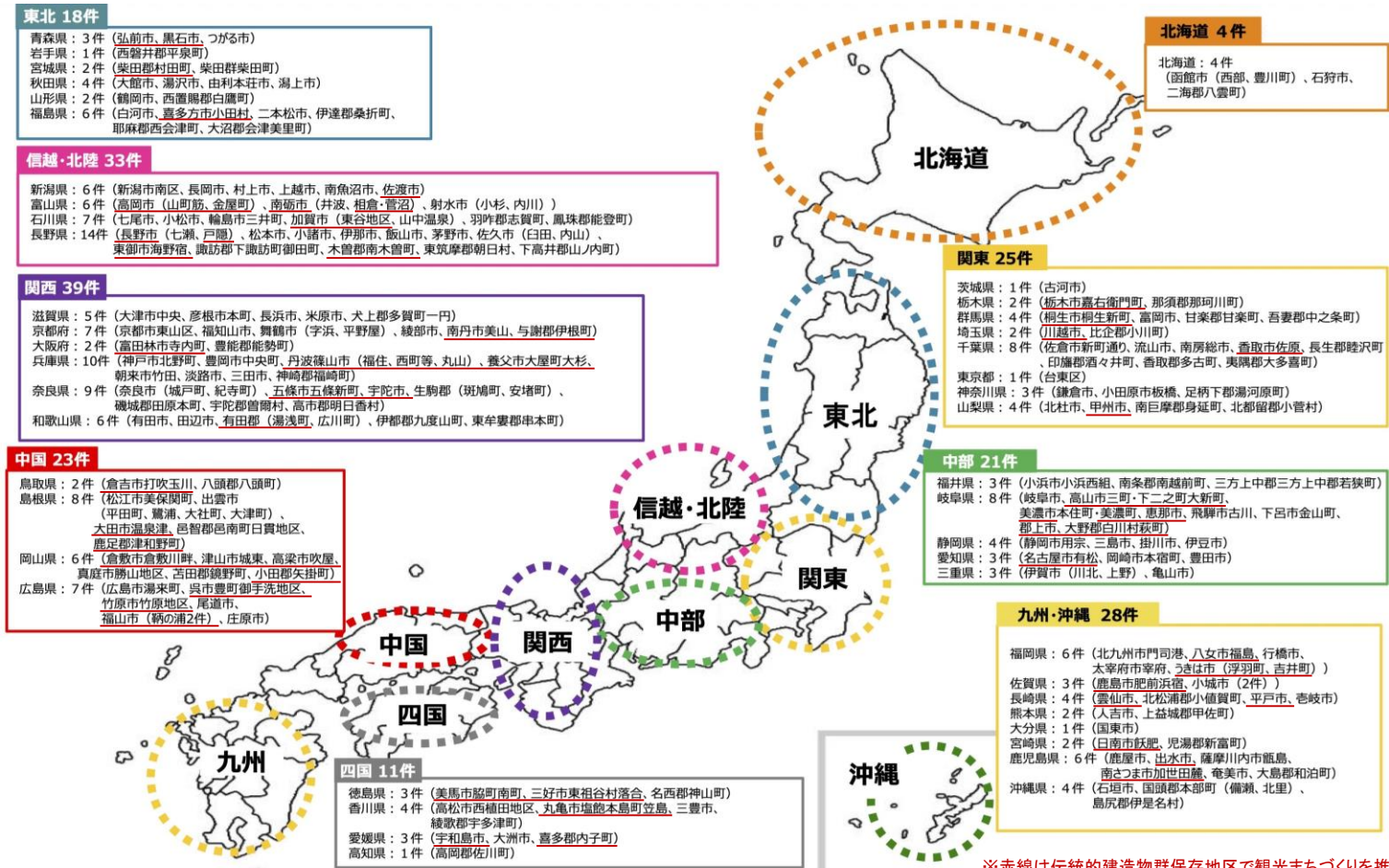
八女市八女福島



うきは市筑後吉井

# C-24. 歴史的まちなみの活用について②

- ・ 観光まちづくりを推進する地域は200を超えましたが、重要伝統的建造物群保存地区でない地域も多く含まれています。
- ・ これは文化財保護法が平成30年に改正されたことにより、文化財の概念が保存から活用に転換し、これまで未指定であった歴史的な建物の活用取り組みが増加したためと考えられます。



※赤線は伝統的建造物群保存地区で観光まちづくりを推進している地域

## D. 小保・榎津のエリア基本計画

## D-1. ターゲット設定

- ・ 小規模な歴史的資源の残る地区として、「歴史的資源を活用した観光まちづくり」を意識したターゲット設定とします。
- ・ ただ消費を促すのではなく、地域の歴史・文化を感じられる体験の提供をサービスの主軸とし、観光公害を招かないようにします。

種別	地域外ターゲット		地域内ターゲット(福岡県内・近隣県域など)	
ターゲット層	本物で特別な日本文化を体験したい外国人観光客	都市部の文化的で旅慣れた国内観光客	福岡県内・近隣県域からの感度の高い来訪者	土地に愛着を持って暮らす地域住民
イメージ				
特徴	町の風情や暮らしなど、他にはない日本文化の本質を知る機会や体験を求めて訪れる外国人観光客。 東京や大阪・京都など日本の主要な観光地の訪問を終え、何度も来日している外国人観光客。	日本の地方部に残る暮らしや文化、木工やクラフトに興味を持ち、本質的な地域文化の体験に興味がある人たち。 地方部での暮らしにあこがれを抱き、いつかは地方に移住することを視野に入れている。	歴史文化に興味があり、地域の文化を体験することに興味がある人たち。 気兼ねなく利用できる宿泊施設を求める福岡県内や近隣県域の観光客。 在住地域との違いなどを敏感に察知する利用者でもあり、将来的に関係人口化や移住者になる可能性も持っている。	地域に誇りを持ち、常に地域に接している地域住民。 地域のひととの会話が弾むようなカフェやおしゃれな店ができ、胸を張って自分の町を紹介したいと思える町になることを望んでいる。 まちづくりへの関心も高い。
使われ方	<2泊以上の中長期滞在> ・歴史を感じられる日本の町の暮らし文化を体験する宿泊滞在 ・日本の景観を体感しながら滞在するパカンス的な滞在 ・町でのゆったりとした時間や地域色の高い食や本格的な組子などを体験	<日帰り～2泊程度・中長期滞在> ・その土地の歴史や日本の町の暮らし文化を体験する宿泊滞在 ・町でのゆったりとした時間や地域色の高い食などを体験 ・中長期ワーケーション利用	<日帰り～1泊程度> ・地域内の落ち着ける滞在施設としての宿泊滞在 ・地域を知る文化体験 ・友人知人との交流 ・短期ワーケーション利用 ・移住を視野に入れた関わり方	<暮らし・日常的な滞在> ・生活の場 ・家族と暮らす町 ・職場、生業の場として ・友人知人との交流 ・ふるさととして、帰省での利用

## D-2. ターゲット設定の考え方

- ・藩境のまち、大川市の強みと弱み

	(+) <b>プラス要素</b>	(-) <b>マイナス要素</b>
○ 内部 環境 要因	「 <b>強み (Strength)</b> 」：活かすべき強みはあるか	「 <b>弱み (Weakness)</b> 」：克服すべき弱みはあるか
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 木工の歴史が刻まれた家具の生産・日本一の都市に生きる<b>匠の技 藩境のまち・榎津が発祥。特に大川組子は、福岡・九州圏内では知名度も高い。</b></li> <li>② 藩境のまち 古いまちなみが現在に伝える<b>歴史文化の物語</b> (ストーリー)</li> <li>③ 筑後川、有明海がもたらした穏やかな自然の恵みとともに暮らす「住んでよし」の生活の質 (QOL)</li> <li>④ 藩境のまちの住民のNPOを中心としたまちなみ保存の取組を中心に大川市民のシビックプライドが醸成されている。</li> <li>⑤ 大川リビルディング事業の進展による、新しい観光資源の創出の機運</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 大川市の知名度が北部九州以外には低く、国内外に向けてブランド化されていない。</li> <li>② 一般的に旅行者に対する受入環境の整備が整っていない (コンテンツ、ストーリー、サインなどの受入環境、人材育成、施設)</li> <li>③ 市内を周遊する際の移動手段、タクシーやサイクリング、バスの利用方法が未整備。</li> <li>④ 宿泊施設が少なく、滞在時間をのばしにくい。</li> <li>⑤ 藩境のまちエリアは飲食店やショップが少ない。</li> <li>⑥ 観光に対応する人材も不足</li> </ul>
● 外部 環境 要因	「 <b>機会 (Opportunity)</b> 」：市場機会はあるか	「 <b>脅威 (Threat)</b> 」：回避すべき脅威はあるか
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 車で約15分の柳川市には2017年約25万人の外国人旅行者が訪問。宿泊施設が増えたこともあり、2022年の宿泊客数は1974年の観光統計開始以来最多の11万9000人となり、川下りの利用客数は、104.1%増の約15万2600人。足をのばして大川市訪問につなげることができる。</li> <li>② 佐賀空港には、台湾・台北、韓国・ソウル、中国・上海からの直行便が運航。大川市の魅力の認知がすすめば、もっとも近い行く先になる。</li> <li>③ 有明海沿岸道路が拡充され、佐賀の各地域とのアクセスの良さが飛躍的に向上。</li> <li>④ 柳川、八女やうきはなど筑後地域との広域の連携がストーリーが作りやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>② コロナなどの感染症や戦争などをはじめとする国際情勢の変化</li> <li>③ 日本全体のイメージとして自然災害等のリスクが比較的多い (地震・台風・噴火)。</li> </ul>

## D-3. ターゲット設定 外国人観光客について

- ・藩境のまちが目指すターゲット層

### ターゲット（１）

福岡県、福岡市、流入の多さから

- ①北部九州、福岡県に多く、2泊3日が主流  
20代～30代 アクティブな韓国人旅行者
- ②福岡市、佐賀空港、柳川市に多く  
1週間程度の周遊旅行を楽しむ  
個人旅行スタイルの台湾人旅行者
- ③福岡市(福岡空港+博多港)に多く  
レンタカーでも移動が多い香港人旅行者

### ターゲット（２）

藩境のまち 大川市の持つ  
観光コンテンツから

- ①訪日リピーターが多い  
日本らしい風景、文化を好む台湾人旅行者
- ②訪日リピーターが多く、地方に行き常に穴場を探している  
香港人旅行者
- ③日本の伝統文化、古い歴史が好きな欧米からの旅行者

### 藩境のまちインバウンドターゲット

流入人数 X 指向性

- ①まだ知られていない穴場、日本らしい風景、文化を好む  
台湾人、香港人旅行者
- ②日本の歴史、伝統文化に関心が高く、本物の体験を  
求める欧米からの旅行者

### 将来ターゲット

左記+@

- ③福岡県に最も多く訪問し、佐賀空港にも直行便がある、  
グルメやカフェが好きな韓国人旅行者
- ④佐賀空港に直行便があり、個人旅行スタイルで周遊する  
中国人旅行者

## D-4. 滞在コンテンツ（市内）

- ・ 地域外との連携を含め、滞在を通して地域の価値・魅力を感じてもらえるコンテンツ群を検討します。
- ・ 新しい取り組みの提案を含め、歴史的資源の保存と活用のバランスを保ちながら、滞在体験を創造・醸成していきます。

コンセプト:木工発祥のまち・大川市 小保榎津藩境のまちをめぐる「昔のまちなみに匠の技と暮らしにふれる旅」

- ・ 中世から続く歴史の面影が残るまちなみや、この土地で続いてきた生業を守り伝える地域の人々に触れる。
- ・ 通常は非公開の建物や観光資源もガイドと共に見学を可能にする。

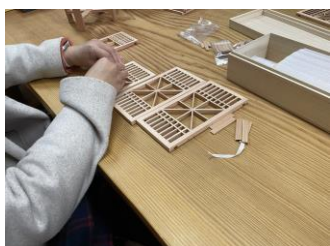
### 【1】文化財×体験

- ・ 旧吉原家住宅  
抹茶体験、組子体験
- ・ 高橋家住宅 庄分酢  
酢蔵見学



### 【2】匠の技に触れる

- ・ 組子、建具の工房見学
- ・ 大川組子体験



### 【3】まちに残る歴史

- ・ 御境石
- ・ 御塚江湖
- ・ 旧緒方家住宅
- ・ 寺社



### 【4】ツアー特別公開

- ・ 地域住民と触れ合い
- ・ 江戸時代の合戦幕
- ・ 器問屋蔵



### 【5】市内他地区の観光スポット

- ・ 昇開橋、大川テラツツア
- ・ 筑後川リバークルーズ
- ・ 風浪宮
- ・ 清力美術館



## D-5. 滞在コンテンツ（中域）

- ・ 大川市と隣接する久留米市や柳川市は、筑後地区のなかでも観光客の多い地域です。
- ・ 近隣地域と連携して広域の滞在コンテンツを造成することで、近隣地域を訪れた観光客等に対して、大川市の認知向上、大川市での滞在誘導を図ります。

久留米・大川クラフトツーリズム(久留米→大川)



©福岡県観光連盟

久留米糺体験



©福岡県観光連盟

酢蔵見学(庄分酢)



©福岡県観光連盟

木工・クラフト体験

柳川・大川リバーツーリズム(柳川→大川)



©福岡県観光連盟

柳川の川下り



©大川観光協会

筑後川の水運の歴史を学ぶツアー



©大川観光協会

筑後川の恵みをいただく(えつ料理)

佐賀・大川酒蔵ツーリズム(佐賀→大川)



佐賀の酒蔵やビール醸造所



©福岡県観光連盟

若波酒造(酒蔵見学)

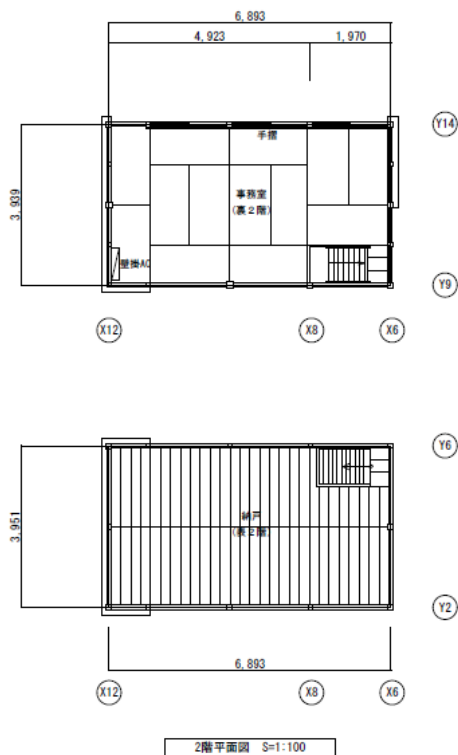
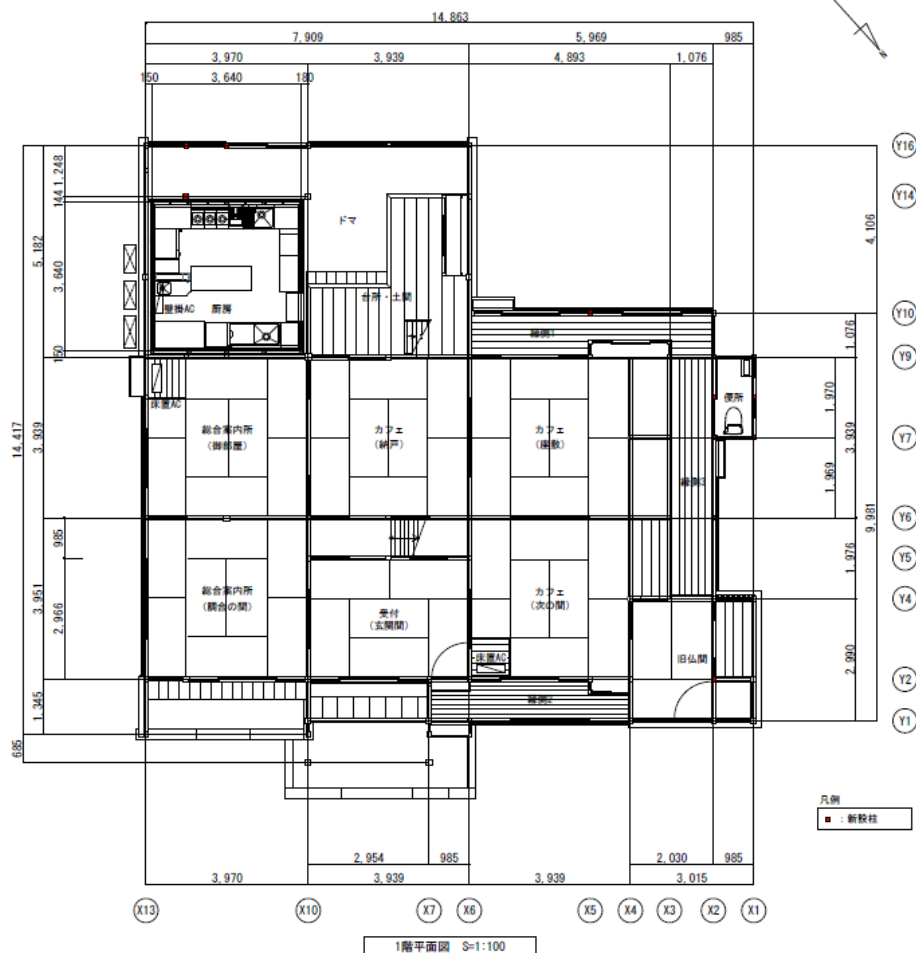


「(仮称)大川の駅」で大川の食と酒ディナー

## D-6. 旧緒方家住宅活用イメージ

まちの総合案内所・カフェとして人々を出迎える文化財

- ・ 福岡県内でも数少ない武家屋敷として、往時の武家・医家の生活を体感できる空間
- ・ 大川市のことや小保・榎津のことについて情報発信する案内所
- ・ 地域内外から人が集まる、くつろぎのスペース



## D-7. N邸活用イメージ

### 大川の木工に触れる滞在

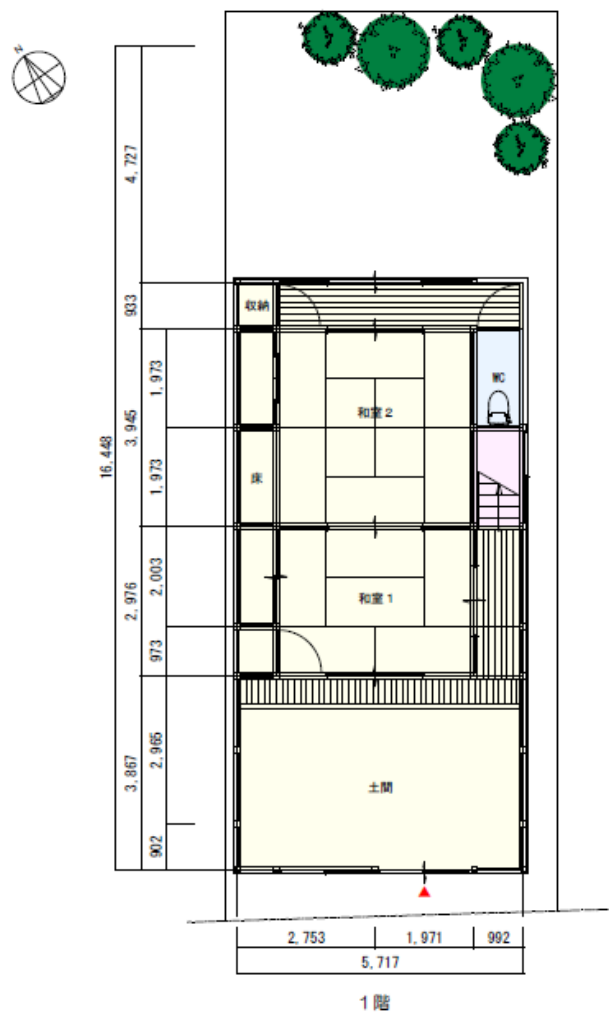
- ・ 大川の職人により制作された家具や建具で設えた、大川の匠の技が体感できる泊れるショールーム
- ・ 客室としての利用以外に、1階ではイベントや店舗などの利用も可能な空間として整備



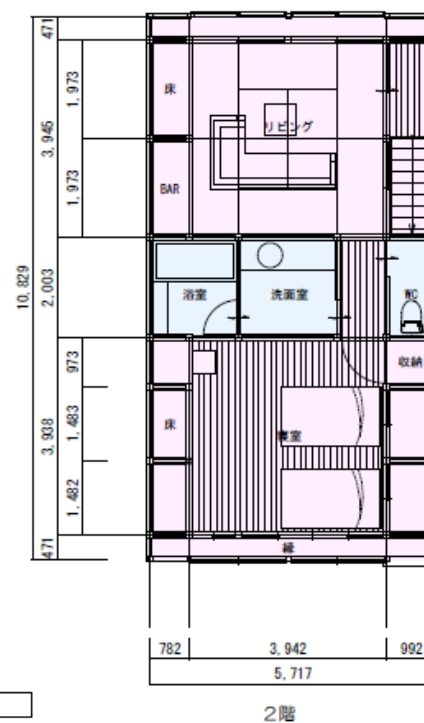
## D-8. E邸活用イメージ

### 大川の木工に触れる滞在

- ・ 大川の職人により制作された家具や建具で設えた、大川の匠の技が体感できる泊れるショールーム
- ・ 客室としての利用以外に、1階ではイベントや店舗などの利用も可能な空間として整備



1F床面積	67.01m <sup>2</sup>
2F床面積	61.90m <sup>2</sup>
延床面積	128.91m <sup>2</sup>



計画平面図 1:100

## D-9. S邸活用イメージ

### 職人から学ぶクラフト工房

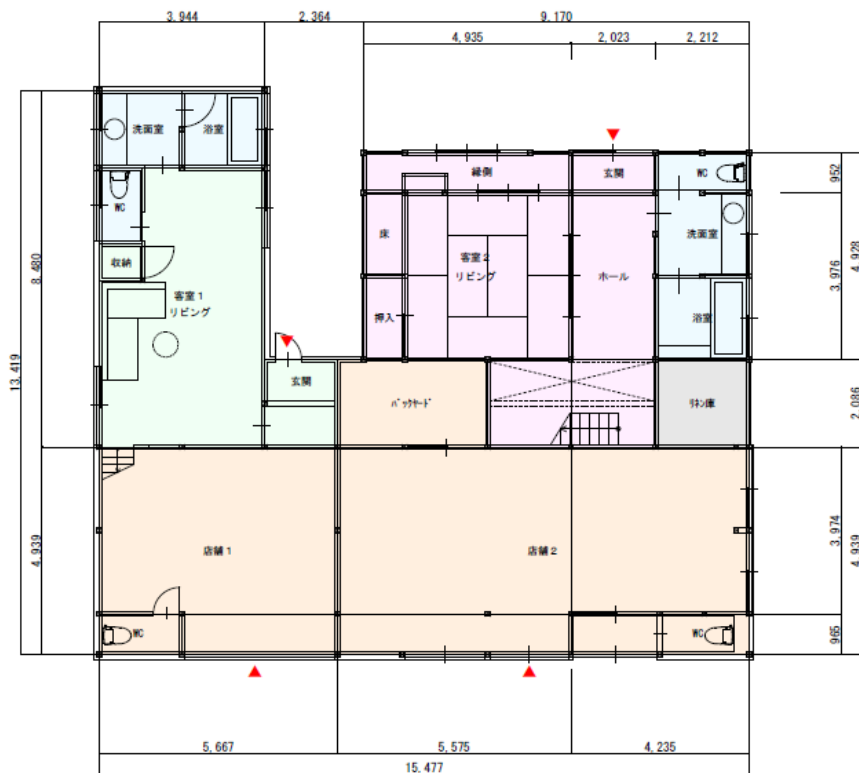
- ・ 1階の前面は職人が作業を行うクラフト工房兼、一般観光客が体験ができるスペースとして開放
- ・ 1階奥側と2階は、クラフトインもしくはゲストハウスとして利用できるよう、居住空間を整備



## D-10. U邸活用イメージ

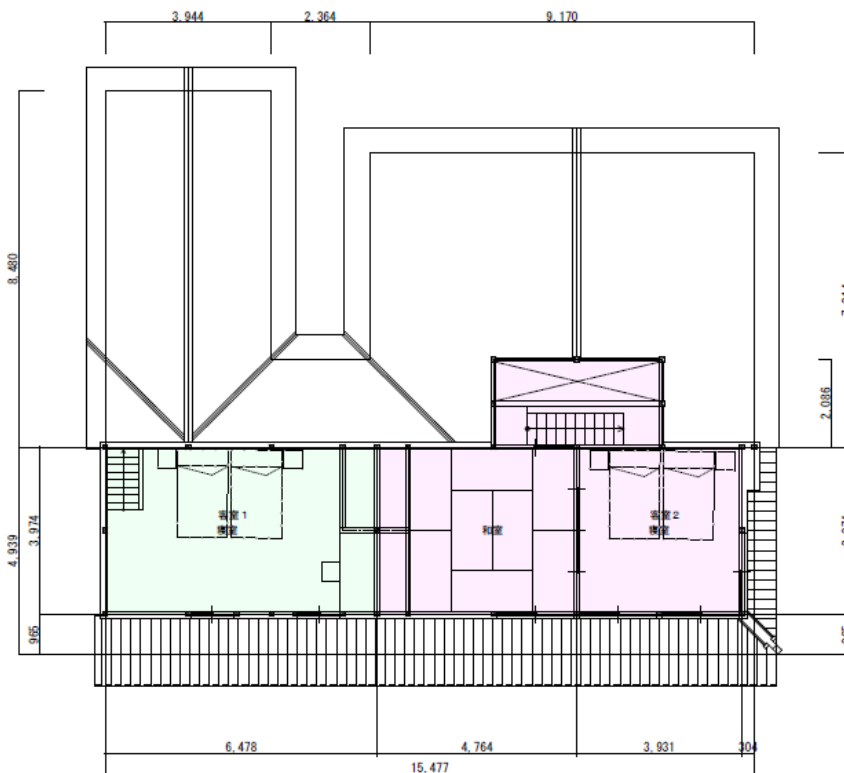
### 地元住民の集まる場と地域住民に触れる滞在

- ・ 1階の道路に面する部分は、テイクアウトカフェとして活用、地元の人の情報交換の場としても活用してもらう。
- ・ 建物裏側の1階、建物2階は、滞在施設として活用。



現況 1F平面図 S=1:100

	1F床面積	2F床面積	計
寝室1	37.04m <sup>2</sup>	25.74m <sup>2</sup>	62.78m <sup>2</sup>
寝室2	53.55m <sup>2</sup>	38.73m <sup>2</sup>	92.28m <sup>2</sup>
リビング	4.81m <sup>2</sup>		4.81m <sup>2</sup>
店舗1	27.99m <sup>2</sup>		27.99m <sup>2</sup>
店舗2	55.94m <sup>2</sup>		55.94m <sup>2</sup>
計	179.13m <sup>2</sup>	64.47m <sup>2</sup>	243.60m <sup>2</sup>

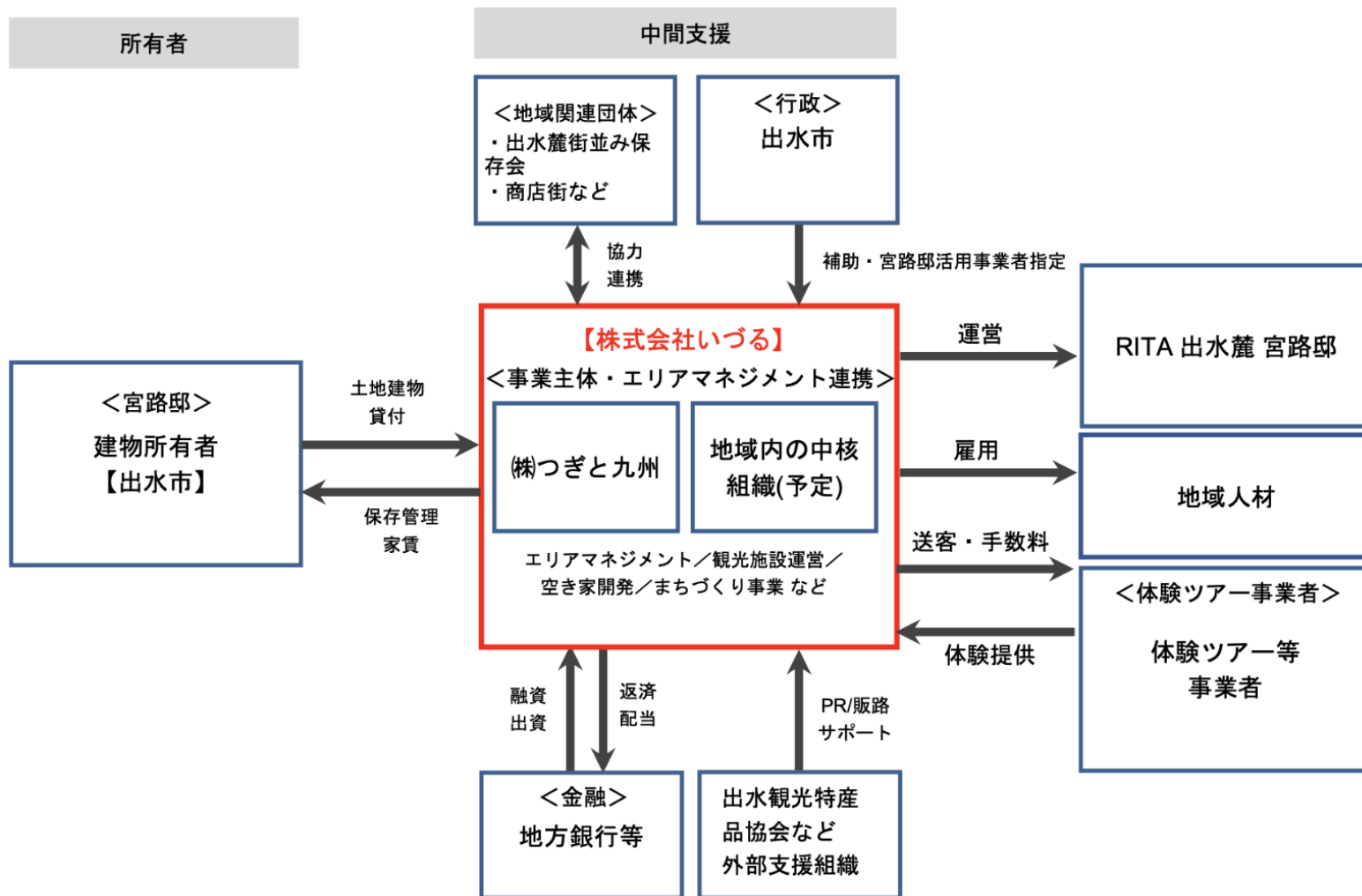


現況 2F平面図 S=1:100

## E. 事業スキーム

## E-1. 事業スキーム図 事例①

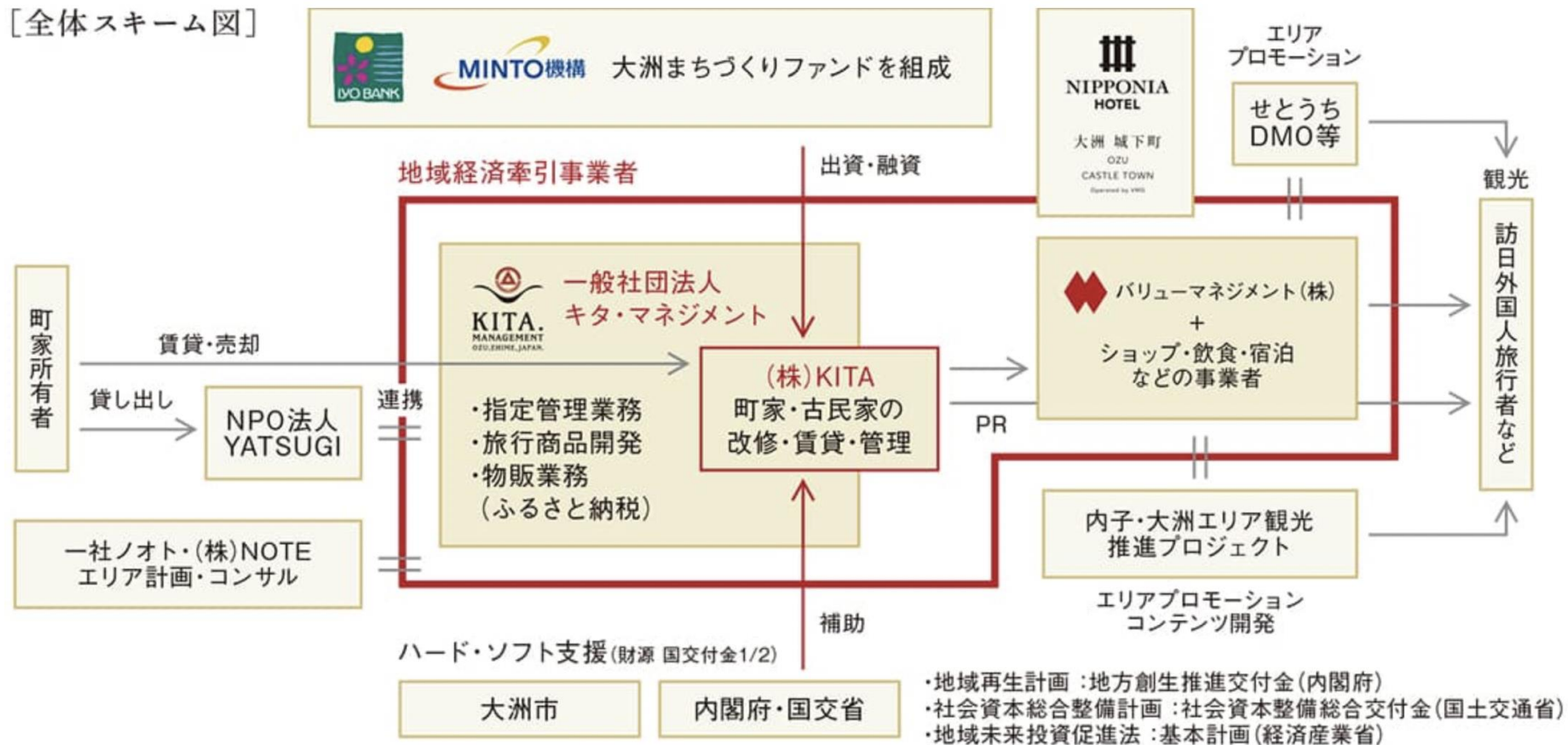
・他地域の事例(鹿児島県出水市)



## E-2. 事業スキーム図 事例②

・他地域の事例(愛媛県大洲市)

[全体スキーム図]



## F. 資金調達スキーム

## F-1. 資金調達手法 事例①

- ・ 良質な公共サービスの提供やコスト削減や地域活性化など様々な効果が期待できる、官民連携(PPP/PFI)の事例

### PPP(Public Private Partnership)

公共施設の建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化を図るもの。

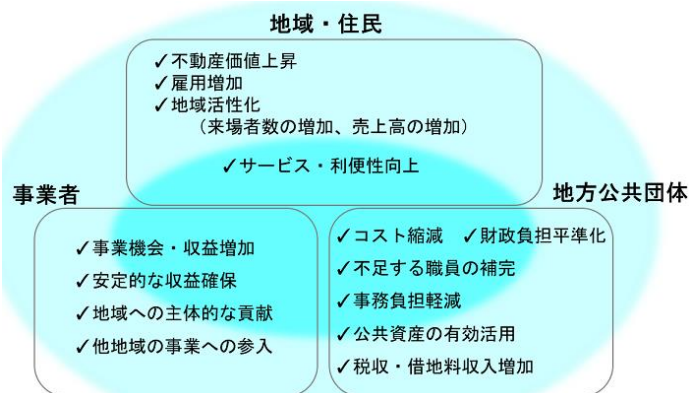
### PFI(Private Finance Initiative)

PFI法に基づき、公共施設の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。

#### ◆従来型の公共事業と典型的なPFI事業との違い



#### ◆PPP/PFIの効果



## F-2. 資金調達手法 事例②

- ・ 事業の成果に連動して、委託料の最終支払い額が決まる、民間への行政サービスの業務委託契約手法の事例
- ・ 日本ではヘルスケア分野での導入が先行していますが、まちづくり分野での導入も進み始めています。

### PFS(Pay For Success)

国または地方公共団体が、民間事業者に委託等して実施させる事業のうち、その事業により解決を目指す行政課題に対応した成果指標が設定され、地方公共団体等が当該行政課題の解決のためにその事業を民間事業者に委託等した際に支払う額等が、当該成果指標の改善状況に連動するもの。

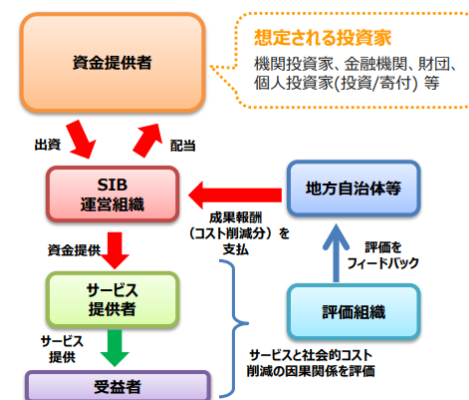
### SIB(Social Impact Bond)

行政から民間に委託する際の手法の一つ。民間資金を活用して革新的な社会課題解決型の事業を実施し、その事業成果(社会的コストの効率化部分)を支払の原資とすることを目指すもの。ニューヨーク市等では、民間事業者の活動の社会的インパクト(行政コスト削減等)を数値化し、自治体等がその成果報酬を支払うSIBの導入が図られ、民間資金の活用が進んでいる。

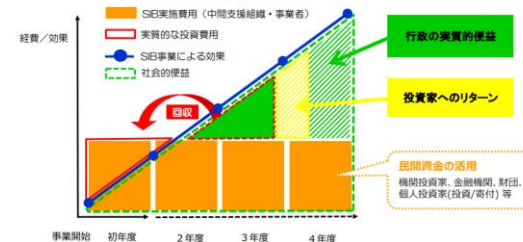
#### <具合的な組織・推進イメージ>

- ・ SIBを実施する際には、中立的に事業成果を評価する第三者評価機関や、行政・資金提供者サービス提供者等の調整・案件形成等を担う中間支援組織などが必要とされる。
- ・ 現実には、評価や組成・管理にも相応のコストがかかることを踏まえ、事業の規模や性質に応じた適切な推進体制を検討することが重要。

#### <SIBの一般的なスキーム>

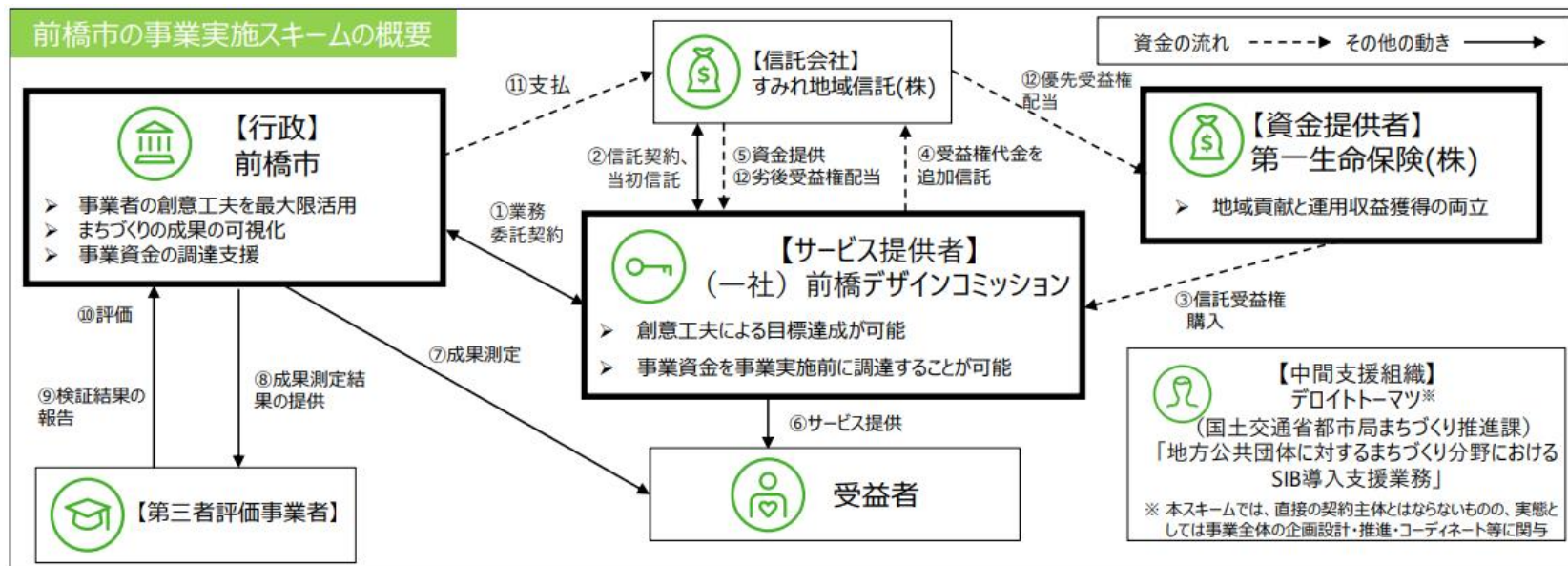


#### <SIB事業におけるコストと社会的便益のイメージ>



## F-3. 資金調達手法 事例③

- ・まちづくり分野におけるSIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)導入事例
- ・馬場川通り(群馬県前橋市)を対象とした地域まちづくり勉強会や社会実験などにより、地域コミュニティの再生及びエリア価値の向上に寄与する事業を、まちづくり分野では全国初となるSIBにより実施しています。



### 【前橋市が(一社)前橋デザインコミッションへ委託する業務の概要】

事業名	SIBによる前橋市アーバンデザイン推進業務
成果指標	歩行者通行量
業務期間	令和3年9月16日から令和6年3月末まで
取組内容	まちづくり勉強会開催、社会実験実施、その他成果を達成するために行われる任意事業
金額	成果に応じて7,400,000円~13,100,000円で変動 ※リスクとリターンは、(一社)前橋デザインコミッションと第一生命保険(株)で分担



現在の馬場川通りの様子

(前橋市公表資料を基に国土交通省が作成)

## F-4. 資金調達スキーム(案)

・事業主体として設立を予定している地域まちづくり会社の資金調達スキーム(案)

